

社会福祉法人初穂会
平成28年度

事業報告案



特別養護老人ホーム稲毛こひつじ園
短期入所生活介護
通所介護
居宅介護支援

ほっとスペース稲毛ペコリーノ

目次

平成28年度社会福祉法人初穂会事業報告に寄せて	1
1 平成28年度社会福祉法人初穂会事業報告概要	3
2 平成28年度事業実績報告	5
3 平成28年度施設サービス課 各部門実績報告	23
3-1 介護部門	23
3-2 医務部門	25
3-3 施設サービス課 生活相談員部門	28
3-4 施設サービス課 介護支援専門員	29
3-5 施設サービス課 栄養部門	30
3-6 居宅サービス課 短期入所生活介護（ショートステイ）部門	35
3-7 居宅サービス課 介護予防通所介護・通所介護	40
3-8 居宅サービス課 居宅介護支援センター	45
3-9 施設サービス課 ボランティア部門	49
3-10 機能訓練部門	50
3-11 事務課 事務部門	51
3-12 新規プロジェクト部門	52
4 各委員会実績報告	53
4-1 安全対策委員会	53
4-2 衛生委員会	55
4-3 褥瘡対策委員会	57
4-4 防災委員会	59
4-5 介護力向上委員会	62
4-6 食中毒蔓延防止・感染対策委員会	65
4-7 広報行事委員会	67
4-8 身体拘束廃止検討委員会	69
5 地域カフェ こひつじ（認知症カフェ）	71
6 ほっとスペース 稲毛ペコリーノ	72
7 EPA	74
8 法人本部（平成29年3月31日現在）	74
9 組織図	77
10 職員配置状況	78

平成28年度社会福祉法人初穂会事業報告に寄せて

平成28年11月で、当法人が運営しております特別養護老人ホーム稲毛こひつじ園が開園10周年を迎えました。利用者、ご家族、職員、地域の方々ならびに平素より園の事業にご理解とご支援を頂いている全ての方々に心から感謝申し上げます。

この10年の間に、こひつじ園を知って下さる地域の方々も増え、何とか財務的にも赤字を出さずに施設運営を続けることができました。しかし、日々の運営の中で本当に本来の施設方針が実現できていたかを省みると甚だ疑問と言わざるを得ません。運営の安定に胡坐をかいて本来為さねばならぬことが欠けていた点多々あったと思います。勿論、職員は日々利用者と向き合い懸命に職責を全うしてくれています。この後の事業報告の内容にあるように、各部門で短期的・長期的な目標を掲げその実現に向けて努力してくれています。それにも拘わらず、その職員達に本当にやりがいのある職場環境を提供することができてはいなかったと思います。毎年25%を超える離職率が続き、しかも1年以内に辞めていく者が多かった事実が端的にそれを物語っています。それを是正し、克服するための最初の施策として昨年、新人教育マニュアルを見直し、入職後数カ月は「教育ユニット」で実習を受けてから一人立ちしてもらおうシステムを導入しました。教育ユニットや園の併設施設である「稲毛ペコリーノ」でじっくり研修を受けてもらうことで職員が安心感と自信を持って現場に入れるようになってくれることを願います。

中堅以上の職員にもインストラクター研修やユニットケア研修を通じてキャリアアップやスキルの向上を図る機会を設けるようになりました。何といても良い介護を実現するためには良い介護者を育てなければなりません。今後も人材育成を最優先事項として取り組んでまいります。

またこの10年、日常のルーティンを優先する中で介護の現場でも管理部門でも物品や文書の管理が等閑にされてきたことは否めませんでした。どこに何があるのか分からない？状態で、いみじくも一応の運営が為されてきたとするならばそれは奇跡でしかありません。

10年を迎えるに当たって私が職員に第一の優先事項として求めたのは文書・記録と物品の整理整頓でありました。それこそが組織としてのコンプライアンスの維持やガバナンスの透明性を確保する土台となるからです。そしてその整理整頓の中でこそ neglect されていた物が洗い出されるとともに10年の間に根付いてしまった悪しき習慣が正されると信じます。喜ばしいことには多くの職員の努力によって間もなく文書・記録や物品の整理が完遂される予定になっております。

整理・整頓の土台にあるのは「丁寧」の心です。それは物のみならず人を大切に遇することにつながります。

私どもはこの節目の年を再出発の時とし、次の10年、上記のような「人材育成」を根幹とし全職員が「丁寧」の心を忘れない法人運営を実行して参ります。そのためにも福利厚生を増進させ、職員がやりがいを持って利用者と笑顔で接することができる職場環境づくりを行います。

どうか皆様には今後とも温かい目で当法人を見守っていただくと同時に、時には厳しい叱咤激励を頂戴できれば幸甚に存じます。

平成29年 5月28日 社会福祉法人初穂会 理事長 平賀 雅道

1 平成 28 年度社会福祉法人初穂会事業報告概要

当法人が平成 18 年 11 月の開設以来、今年で満 10 年を迎えることが出来ましたのは、またひとえにご利用者様、ご家族様、地域の皆様、ボランティア、行政、当法人に関わる皆様方のご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

さて、平成 28 年度事業につきまして、法人理念及び基本方針にもとづき各部門が事業展開を行いました。特に、重点目標にあげた「連携強化」「地域福祉」「新規事業の準備から開設へ」については年間を通して注力いたしました。更に満 10 年を迎えて将来を見据えた取り組みということで、今までの業務体制の見直しも実施しております。その他、地域交流室における月 2 回の地域カフェの開催、稲毛ペコリーノによる介護職員の養成、地域への公開講座の実施活動や学習支援、加えて、ベトナムより受け入れた E P A 職員 3 名が 2 年目となるなど、更なる活躍を期待した指導等数々の取り組みを行っております。

特別養護老人ホームでは「暮らしの継続」を目指し、年間を通して数々の行事を実施しました。稼働状況は年間を通して入退所が各 22 件あり平均稼働率は 99.8%で推移しました。待機者については平成 28 年 3 月末現在 110 名ですが、今後については、近隣にも特別養護老人ホームが新設されますので、当園が安定した運営基盤を確保する為に差別化を図っていくとともに、待機者の方々への定期的、且つ迅速なアプローチも欠かすことができないと認識しております。

利用者サービスを行っていく際、職員の確保は最重要項目となります。これは当法人のみならず多くの法人の懸念事項であると思います。その為、複数の資格手当支給制度の拡充、研修・資格取得奨励金等も含め福利厚生を充実させました。

また、職員のモチベーションを維持できる体制を構築し差別化していくことを目指しました。新人職員はまず始めに研修ユニットへ配属され、専任の指導担当者により必要な入職時研修を 1 カ月から 3 カ月間受けた後、実際の所属先に配属としました。このことにより、新人職員と受け入れユニットのミスマッチ軽減につながり、離職率を低下させることが出来ました。さらに平成 27 年 12 月から義務付けられたストレスチェック制度を受け当法人においても平成 28 年 4 月から準備を始め 7 月に実施。診断結果により産業医の相談を受けられる体制を整備しました。

利用者対応における医療機関受診にまで至った重大事故は 8 件でした。事故の内容は、骨折 6 件、裂傷 1 件、打撲 1 件です。8 件の事故のうち、入院したケースは 3 件でした。いずれも骨折による入院治療目的となっています。これらについては十分な精査を行い、再発防止に努めました。

近い将来発生するであろう関東地域における災害時対策としては、地域における福祉的避難所を目指し、備蓄食料のみならず、医務スタッフによって一次対応が出来る医療品の準備も増強いたしました。

ショートステイは稼働率が91.3%となり、前年度比10%減との結果になっております。その理由としては、介護保険法の本来の趣旨である長期間のショートステイから短期間のショートステイへ移行したことが大きく関わっております。一方、地域包括支援センターや行政からの緊急受け入れ・相談も積極的に受け入れ、新たな利用者を迎え入れることが出来ています。今後も法令を遵守しながらご利用者のニーズに対応し、選ばれる事業所を目指していきます。

デイサービスは、今後、本格的となる地域包括ケアシステム・総合事業を見据えながら、利用定員・サービス内容の変更と職員人員配置の見直しをいたしました。その結果として、12月より稼働率は上がっていますが、実利用者数の上昇はありませんでした。来年度以降、実際に大きくサービス内容を変更した際の対策を慎重に検討していきます。

居宅介護支援は、法令遵守のもと自立支援及び利用者本位の生活が送れるよう支援していくという基本姿勢を以って対応してきましたが、介護支援専門員の人員減により稼働率の低下を避けることができませんでした。しかし、利用者一人ひとりに丁寧な対応を行い、地域へのアウトリーチ・連携に取り組んできましたので、この取り組みを今後も実績に繋げていけるよう努力していきます。

今期の新規事業準備については準備不足等もあり、結果を出すことが出来ませんでした。来年度に向け十分な準備をし、漸進させていきたいと思っております。

最後になりましたが、平成28年11月1日、恒例となりました文化祭には10周年記念として、これまで共に施設運営に携わってきた職員に対し、10年勤続者3名、5年以上の勤続者29名を表彰いたしております。

また、ご利用者とご家族と一緒に外出されることをお手伝いした旅行企画として、【海ほたるツアー】を開催したことも大きなトピックスとして挙げる事が出来た一年でした。

これからも多職種連携、共に感謝する心を大切に、コミュニケーション良く、地域福祉に貢献出来る存在としての稲毛こひつじ園の発展に職員一同尽力して参ります。



2 平成 28 年度事業実績報告

<入居者の状況>

- | | |
|----------------|----------------------------|
| 1) 介護保険者別入所者状況 | 1 1) 外出状況 |
| 2) 待機者状況 | 1 2) 面会者の状況 |
| 3) 月別入所状況 | 1 3) ボランティア活動状況 |
| 4) 稼働率 | 1 4) 内部研修 |
| 5) 年齢状況 | 1 5) ユニットケア勉強会取り組み (12 月分) |
| 6) 介護度別状況 | 1 6) 外部研修 |
| 7) 階層別状況 | 1 7) リーダーシップ研修 |
| 8) 在籍期間 | 1 8) インストラクター研修 |
| 9) 重大事故 | 1 9) 介護力向上講習会 |
| 1 0) 行事 | 2 0) サンファイバー、オリゴ糖の使用状況 |

1) 介護保険者別入所者状況 () 内は平成 27 年度末時点

平成 28 年度の入居者の内訳は、千葉市在籍者が 81 名、その他の市町村在籍者は 9 名でした。

待機者数は 110 名と昨年度より 58 名減少しています。

	保険者	地区	入居者	待機者	優先入居
千葉	千葉市	稲毛区	41(41)	43(70)	12(19)
		中央区	11(12)	6(10)	2(5)
		花見川	9(6)	3(8)	0(1)
		若葉区	12(16)	24(31)	7(9)
		緑区	0(0)	0(1)	0(0)
		美浜区	8(8)	8(14)	4(4)
他			9(7)	26(34)	4(7)
計			90(90)	110(168)	29(45)

2) 待機者状況

待機者のうち、在宅が最も多く全体の46%となっています。次いで介護老人保健施設、病院の順になっています。

	期首	期末	新規	取消	入所
性別計	168	110	21	69	22
男	55	34	7	26	6
女	113	76	14	43	16
自宅	77	51	10	30	7
グループホーム	6	4	0	0	0
病院	21	15	6	10	7
介護老人保健施設	28	26	3	15	3
他の特養	0	0	0	0	0
他	36	14	2	14	5

3) 月別入所状況

入所、退所とも22名でした。2月に4名と最も多くの退所者がでています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月初	90	90	90	89	88	90	90	90	90	90	90	88	
入所	2	3	0	2	3	2	2	1	1	2	2	2	22
退所	2	3	1	3	1	2	2	1	1	2	4	0	22
月末	90	90	89	88	90	90	90	90	90	90	88	90	

4) 稼働率

平均入所稼働率は99.8%と前年と同様の数字でした。

	実績	稼働率	累計稼働率	前年実績	前年対比
4月	2695	99.8%	99.8%	2699	99.9%
5月	2784	99.8%	99.8%	2790	99.8%
6月	2697	99.9%	99.8%	2700	99.9%
7月	2782	99.7%	99.8%	2786	99.9%
8月	2788	99.9%	99.8%	2789	99.9%
9月	2696	99.9%	99.8%	2698	99.9%
10月	2777	99.5%	99.8%	2788	99.6%
11月	2695	99.8%	99.8%	2688	100.3%
12月	2787	99.9%	99.8%	2787	100%
1月	2788	99.9%	99.8%	2785	100.1%
2月	2512	99.7%	99.8%	2608	96.3%
3月	2786	99.9%	99.8%	2790	99.9%
計	32787		99.8%	32908	

5) 年齢状況

()内は平成27年度末時点

男女合わせた平均年齢、男性女性別の平均年齢とも前年とほぼ同様でした。
最高齢は106歳の方です。

区分	男	女	計(人)
65歳未満	0	0	0
65歳から69歳	1(2)	0(1)	1(3)
70歳から74歳	2(2)	4(2)	6(4)
75歳から79歳	3(2)	6(6)	9(8)
80歳から84歳	0(2)	11(11)	11(13)
85歳から89歳	6(6)	16(15)	22(21)
90歳から94歳	3(2)	19(23)	22(25)
95歳から	1(3)	18(13)	19(16)
計	16(19)	74(71)	90(90)
平均年齢	83.3(83.6)	88.3(88.3)	87.4(87.3)

6) 介護度別状況 ()内は平成27年度末時点

男性の平均介護度は軽度化しましたが、女性の平均介護度は重度化しているため、全体の介護度は0.08%重度化しています。

介護度	男	女	計(人)
1	0(1)	1(2)	1(3)
2	1(0)	4(4)	5(4)
3	6(6)	23(22)	29(28)
4	8(10)	24(26)	32(36)
5	1(2)	22(17)	23(19)
合計	16(19)	74(71)	90(90)
平均介護度	3.56(3.63)	3.83(3.73)	3.78(3.70)

7) 階層別状況 ()内は平成27年度末時点

介護保険負担限度額認定証をお持ちの方は58名と全体の64%となっています。

階層別	男	女	計(人)
第1段階	0(0)	0(0)	0(0)
第2段階	2(3)	10(34)	12(37)
第3段階	7(7)	39(12)	46(19)
第4段階	7(9)	25(25)	32(34)
計	16(19)	74(71)	90(90)

8) 在籍期間

入居されてから1年未満の方は19名で全体の21%、5年以上在籍の方は24名と、全体の26%を占めています。

在籍期間	男	女	計(人)
1年未満	5	14	19
1年以上、2年未満	2	12	14
2年以上、3年未満	2	12	14
3年以上、4年未満	3	10	13
4年以上、5年未満	1	5	6
5年以上、10年未満	1	17	18
10年以上	2	4	6

9) 重大事故

医療機関受診した重大事故は 8 件、うち入院 3 件でした。いずれも骨折の治療目的による入院でした。

骨折：6 件

打撲：1 件

裂傷：1 件

H28.5/3 9:00 99 歳 女性 要介護 5

トイレ内にて、右額をぶつけ裂傷、受診し縫合処置を行う。

H28.6/9 21:30 93 歳 男性 要介護 3

ベッドより立ち上がろうとし転倒、左股関節骨折のため入院し手術を行った。

H28.7/12 10:15 93 歳 女性 要介護 2

他ご入居者様の居室内にて車椅子より転落、右股関節骨折、保存治療、内服薬の処方。

H28. 9.2 15:40 90 歳 女性 要介護 3

車椅子からの転落により右膝に腫脹あり。右膝不全骨折の診断。膝の水を抜く処置を行い、痛み止めと湿布処方された。

H28. 11.13 9:30 96 歳 女性 要介護 5

トイレ内で転倒し右頭頂部の内出血と腫脹あり。受診し傷の処置を行う

H28. 12.4 9:00 76 歳 女性 要介護 1

イスに座ろうとして、目測を誤り転倒。右足大腿部の骨折が判明し入院した。

H28. 12.4 13:00 87 歳 女性 要介護 4

車椅子からベッドに移乗する際に転倒。左大腿部の骨折と診断されるも手術はせず、通院しながら経過みることになった。

H29. 3.24 8:00 77 歳 男性 要介護 4

タンスの物品を取り出そうとしたところバランスを崩し転倒。右足大腿部の骨折と判明。入院し手術をすることになった。

10) 行事

今年度の行事は以下の通りです。納涼祭、文化祭については行事委員を中心に実施。おやつ、昼食については各担当者が企画して実施しました。ご入居者様と一緒に楽しめるよう様々な工夫をしています。

	行事名	日程
4月	花見	4月6日
6月	お好み焼きづくり	6月5日
	寒天ゼリーづくり	6月17日
7月	参議院議員選挙不在者投票	7月1日
	納涼祭	7月17日
	流しソーメン	7月27日
8月	流しソーメン	8月5日
9月	100歳のお祝い式典	9月29日
11月	10周年記念イベント	11月3日
12月	ホットケーキづくり	12月6日
	餅つき	12月28日
1月	新年会	1月17,18日
	餃子づくり	1月26日
	和楽器演奏会	1月31日
2月	焼き芋	2月24日
3月	桜もちづくり	3月2日
	海ほたる観光	3月23日
	パンケーキづくり	3月24日
	花見	3月29日

1 1) 外出状況

今年度は、3月に木更津の海ほたるまで観光の日帰り旅行を初めて企画し実施しました。それ以外にも毎月近隣のショッピングセンターまで買い物に行っています。

	外出先	目的	利用者数
4月	ワズモール	買い物	3
5月	ワズモール	買い物	2
6月	イオン長沼	買い物	3
	自宅	一時帰宅	1
8月	イオン長沼	買い物	3
	自宅	一時帰宅	1
9月	イオン長沼	買い物	3
	自宅	一時帰宅	1
	とんでん	昼食外食	7
10月	イオン長沼	買い物	3
	自宅	一時帰宅	1
11月	イオン長沼	買い物	2
	郵便局	手続き	1
12月	イオン長沼	買い物	3
	サイゼリヤ	昼食外食	1
1月	イオン長沼	買い物	3
	自宅	一時帰宅	1
2月	イオン長沼	買い物	3
	自宅	一時帰宅	1
3月	イオン長沼	買い物	3
	自宅	一時帰宅	1
	海ほたる	観光	2

12) 面会者の状況

平成28年度の面会件数は、1年間の平均では1日17件、面会人数は21人でした。

	面会件数	面会人数
4月	304	324
1日平均	10	10
5月	566	634
1日平均	18	20
6月	609	692
1日平均	20	23
7月	667	778
1日平均	21	25
8月	626	758
1日平均	20	24
9月	579	777
1日平均	19	25
10月	570	679
1日平均	18	21
11月	498	634
1日平均	16	21
12月	532	660
1日平均	17	21
1月	574	789
1日平均	18	25
2月	522	662
1日平均	18	23
3月	475	635
1日平均	15	20
合計	6,522	8,022
1日平均	17	21

13) ボランティア活動状況

当施設ではボランティア活動を希望される地域住民の方々を積極的に受け入れるように努めています。傾聴や軽作業をしてくださる個人のボランティアが増加しています。

新たに将棋の対戦相手になって頂ける方を募集し、2名の方に来て頂きました。そのうちお一人は中止となりましたが、お一人は毎週来ていただいています。

	活動者	内容	実人員	延べ回数
4月	個人	傾聴	3	6
	個人	体操	1	1
	コスモス	歌	5	2
	ハーモニカ	ハーモニカ演奏	3	1
	カラオケ	カラオケ	3	1
5月	個人	傾聴	3	5
	個人	体操	1	1
	個人	演歌披露	1	1
	コスモス	歌	5	2
	萩の会	日本舞踊	10人以上	1
	ハーモニカ	ハーモニカ演奏	3	1
	カラオケ	カラオケ	3	1
6月	個人	傾聴	3	5
	個人	体操	1	1
	コスモス	歌	5	2
	ハーモニカ	ハーモニカ	3	1
	家族関係者	ハワイアン演奏	5	1
	カラオケ	カラオケ	3	1
7月	個人	傾聴	3	6
	個人	体操	1	1
	コスモス	歌	5	2
	ハーモニカ	ハーモニカ演奏	3	1
	カラオケ	カラオケ	3	1
	萩の会	日本舞踊	10人以上	1
8月	個人	傾聴	3	7
	個人	体操	1	1
	個人	ギター演奏	1	1
	コスモス	歌	5	2
	ハーモニカ	ハーモニカ演奏	3	1
	カラオケ	カラオケ	3	1
9月	個人	傾聴	4	8

	個人	体操	1	1
	個人	将棋	1	2
	コスモス	歌	5	2
	ハーモニカ	ハーモニカ演奏	3	1
	カラオケ	カラオケ	3	1
	萩の会	日本舞踊	10人以上	1
10月	個人	傾聴	3	4
	個人	体操	1	1
	個人	将棋	2	5
	個人	ギター演奏	1	1
	コスモス	歌	5	2
	ハーモニカ	ハーモニカ演奏	3	1
	カラオケ	カラオケ	3	1
11月	個人	傾聴	3	8
	個人	体操	1	1
	個人	将棋	1	5
	コスモス	歌	5	2
	ハーモニカ	ハーモニカ演奏	3	1
	カラオケ	カラオケ	3	1
	萩の会	日本舞踊	10人以上	1
12月	個人	傾聴	3	9
	個人	体操	1	1
	個人	将棋	1	2
	コスモス	歌	5	2
	ハーモニカ	ハーモニカ演奏	3	1
	カラオケ	カラオケ	3	1
	萩の会	日本舞踊	10人以上	1
1月	個人	傾聴	4	7
	個人	体操	1	1
	個人	将棋	1	3
	コスモス	歌	5	2
	ハーモニカ	ハーモニカ演奏	3	1
	和楽器	和楽器演奏	3	1
2月	個人	傾聴	4	8
	個人	体操	1	1
	個人	将棋	1	2
	コスモス	歌	5	2
	ハーモニカ	ハーモニカ演奏	3	1

3月	個人	傾聴	4	11
	個人	体操	1	1
	個人	将棋	1	4
	コスモス	歌	5	2
	ハーモニカ	ハーモニカ演奏	3	1
合計				174

14) 内部研修

各ユニット持ち回りで、それぞれテーマを設定しユニットケアを深めるための勉強会を行う。その他感染症対策、身体拘束廃止についての勉強会を実施しました。

研修名	日付	場所	テーマ	参加人数
ユニットケア勉強会	H28.6.28	こひつじ園	食に対して満足できるユニット経営	15名
	H28.7.23		また来たくなる場所	13名
	H28.8.27		情報共有の仕組みを作ろう	16名
	H28.9.25		利他の心	14名
	H28.10.22		介護力向上	5名
	H28.11.27		オムツ0	5名
	H28.12.24		入居者1人1人に合わせた起床・就寝にしよう	5名
	H29.1.28		暮らしの充実を図る	7名
	H29.2.28		言葉がけによる入居者の変化	5名
	H29.3.28		入居者一人1人に合わせた食事をしよう	5名
施設内勉強会	H28.9.6	こひつじ園	身体拘束ゼロ	13名
施設内勉強会	H28.11.21 11.29	こひつじ園	感染症対策	13名

15) ユニットケア勉強会取り組み(12月分)
利用者一人一人に合わせた起床・就寝介助の実現

① この取り組みを選んだ理由

- ・元々介護職員主体の起床介助、就寝介助に疑問を感じていた。
- ・3-3は比較的高齢ユニットでもありそれぞれのペースで生活を送ってもらいたかった。

② 一人一人に合わせた起床・就寝介助のメリット

- ・各自の生活リズムが作りやすい
- ・家庭生活の延長である施設の生活が実現できる
- ・快食、快眠、快便
- ・体調管理しやすい
- ・誤嚥防止

③ 職員主体の起床・就寝介助で起こりうるデメリット

- ・生活がコントロールされている
- ・自分らしさの喪失
- ・昼夜逆転
- ・覚醒不十分

④ 取り組み開始について

- ・自分の意思を伝えることが出来る利用者に、起きたい時間・寝たい時間の希望をとる。意思疎通が困難な利用者に関してはご家族などにどのような生活スタイルで過ごされていたかを確認し反映させた。
- ・一人一人の起床時間と就寝時間を記録に取り、朝食時の様子や日中の覚醒状況、夜間帯の睡眠状況などを観察し本人に合った、起床時間と就寝時間を模索していった。
- ・朝なかなか目覚めない方に関しては適度なところでレースのカーテンにし光を入れさせていただき起床を促した。
- ・夜間良眠の為に日中の活動量増加を図りフロア内散歩や体操に参加してもらった。
- ・就寝前にホットミルクを提供し睡眠を促した。

⑤ 成果と今後の課題について

【成果】

- ・入居者ごと声かけ返答にて朝の状態の確認が出来る。
- ・しっかりと覚醒している事により誤嚥防止にもなる。
- ・起きたくない利用者については規則正しい生活リズムを作るためにも声かけ促す必要性もある。
- ・起床の時間をずらすことにより本人の良い状態での食事摂取が出来る。
(結果摂取量も増加)
- ・日中の傾眠が減少した利用者も見られた。
- ・夜間なかなか寝付けず居室から度々出てくる利用者がいたが居室から出てくる回数が減少した。

【今後の課題】

- ・入居者ごとの声かけ状態の確認を職員全員が行えるか。
- ・食事のタイムリミットが2時間。(延食)
- ・食事介助を要する利用者が延食対応になるとその後の業務に影響が出る場合がある。
その後の業務に影響が出ないような対応策を検討していく必要がある。
- ・季節事に応じた起床時間、就寝時間のずれに対応出来る様データを取っていく。
例：冬は中々起きたくない等
- ・外気浴等が行えればなおいいと思う。(現在人員が足りず行う事が厳しい)

16) 外部研修

平成28年度は1日だけの研修のみならず、数回にわたる継続した研修に参加しました。

研修名	日付	場所	テーマ	参加人数
リーダーシップ研修	H28.5.11	稲毛こひつじ園	リーダーシップの基礎理解	9名
	H28.7.7		指導育成力基礎	9名
	H28.9.7		指導育成力応用	9名
	H28.12.14		問題解決志向基礎	7名
	H29.3.15		問題解決志向応用	3名
高齢者の精神症状を理解する。	H28.7.26	ハーモニープラザ	自立できる現場職員になるために	1名
	H28.8.30			
	H28.9.27			

介護力向上講習会	H28.8.5	ハーモニープ ラザ	身体的自立支援の基礎 知識	1名
	H28.10.7	きぼーる	認知症ケア	3名
	H28.12.9	きぼーる	おむつゼロまとめ	2名
	H29.2.10	ハーモニープ ラザ	常食化（事例）	1名
インストラクター 研修	H28.9.1	稲毛こひつじ 園	コミュニケーション技 術	8名
	H28.9.2		心と体の仕組みを生か した基本動作	8名
	H28.10.3		自立に向けた移動、移 乗介助	8名
	H28.10.4		自立に向けた食事介助	8名
	H28.11.7		自立に向けた排泄解除	8名
	H28.11.8		自立に向けた身支度介 助	8名
	H28.12.5		自立に向けた清潔、入 浴介助	8名
H28.12.6	総合試験と評価、試験	8名		
スキルアップ研修	H28.5.31	柏こひつじ園	理学療法士スキルアッ プ研修	1名
権利擁護身体拘束 研修	H28.6.15	美浜保健セン ター	身体拘束と虐待につい て	1名
安全運転講習会	H28.7.14	ハーモニープ ラザ	福祉車輛の安全運転の 方法	1名
デイサービス差別 化セミナー	H28.8.17	船橋市湊ビル	シナプソロジーを利用 しデイの差別化を図る	1名
インストラクター 養成研修	H28.9.15	ペコリーノ	介護技術と指導力の向 上	1名
千葉県高齢者身体 拘束廃止研修	H28.10.13	美浜保健福祉 センター	身体拘束、虐待廃止に 向けての取り組み	1名
苦情について実践 的に学ぶ	H29.1.10	千葉県経営者 会館	苦情を信頼に変える相 談対応、解決	3名
褥瘡の予防と対策	H29.1.17	東京都福祉保 健財団	褥瘡を発生させない為 の基礎知識を学ぶ	1名
千葉県老施協	H29.2.7、 2.8、2.15	若葉保健福祉 センター	高齢者権利擁護、身体 拘束廃止研修	1名
管理者向け研修	H29.1.26	錦糸町本部	パワーハラスメントに	1名

			ついて	
稲毛区ケアマネ連絡協議会	H29.2.13	稲毛保健福祉センター	在宅介護における薬剤師ができる支援	2名
リハケアの知識、技術	H29.2.17, 2.18	袖ヶ浦さつき台病院	リハケアについて。基本的ケア	1名
稲毛区社会福祉協議会	H29.2.28	稲毛保健福祉センター	日常生活総合事業に向けた介護予防ケアマネジメント	1名
リハケア塾	H29.2.17	袖ヶ浦さつき台病院	ICFってなあに？多職種連携、チーム力	1名
ケアマネ研修会	H29.3.28	千葉市市民会館	支援経過記録の記載方法	1名

17) リーダーシップ研修

リーダーシップ研修に9名の職員が参加しました。

参加者からは、ユニットリーダーになったものの、どのように部下と接すればよいか教わる機会がなかったが、この研修を通してリーダーとしてのコミュニケーションの取り方を学べたことが良かった。実際に現場で抱えている問題をグループワークで取り上げたことで、他のリーダーがどのような考えで仕事をしているのかが分かり、自分の課題が見つかったといった声が挙がりました。

福祉の現場でのリーダーシップ、指導育成の特徴を学んだことで、リーダーとして当園をこんな職場にしたいとの意見交換が活発に行われ、実際の業務改善に役立ちました。

18) インストラクター研修

インストラクター研修に参加した職員8名のうち3名が合格しています。

参加者からは、普段何気なく行っているケアのすべてに根拠があり、声掛け・介助時の姿勢や方法など当たり前に行っている自らのケアを見直すことにつながったとの声が挙がりました。その結果、日々のケアに生かすことができました。基本となる介護知識を持ち入居者、介護者双方にとって心身ともに負担にならない、美しい介護技術を習得することで、すべての介護行為には根拠があり、その根拠を持ってケアを実践することの重要性を認識することができました。

担当講師からは、学んだことの知識を現場に生かし続けるには常に介護行為の理由を考え、それを第三者へ分かるように説明できることが専門職に求められる。相手にこちらが伝えたいことを分かるように伝えるには工夫が必要で、この受け取る相手に合わせた工夫が介護の専門性である。互いに分かり合えることは喜びとなり、“しあわせ”を生み出す介護に繋がる、との言葉を頂きました。

参加した職員にとっては、入居者とのコミュニケーションや声掛けの仕方を見直すきっかけになりました。

19) 介護力向上講習会

当施設は基本ケアである水分・食事・排便・運動の各項目を介護生理学の視点から分析・理解・実施することによってADL（日常生活動作）・IADL（手段的日常生活活動）・QOL（生活の質）の向上に繋がっています。平成28年度は介護力向上講習会に4回参加しました。その際に提出したデータは以下の通りです。常食化の割合、歩行距離は向上しました。しかし、排便場所がベッド上及び、排使用具がオムツの割合が増加してしまいました。下剤使用者の割合を下げることはできませんでした。水分摂取量も若干低下しています。

開催回数	入所者数 (人)	平均水分 量	常食化 (主)	常食化 (副)	下剤割合	排便場所 ベッド上	排使用具 オムツ	1日の平均 歩行距離
第1回 8月5日	87人	1,468ml	58.6%	42.5%	73.6%	9.2%	8.0%	64m
第2回 10月7日	89人	1,408ml	60.7%	48.3%	64.0%	14.6%	14.6%	68m
第3回 12月9日	88人	1,356ml	62.5%	53.4%	70.5%	11.4%	12.5%	41m
第4回 2月10日	84人	1,391ml	63.1%	53.6%	75.0%	13.1%	17.9%	72m

20) サンファイバー、オリゴ糖の使用状況

高齢者の排泄では、便秘が大きな問題です。しかし下剤に頼った排便コントロールでは排便リズムや便の形状を崩し、その結果オムツに頼らなければならなくなります。こうした状況は、本人の身体的・精神的苦痛を増大させるだけでなく、介護する側にとってもケアの負担が大きくなる要因となっています。

ご入居者様、お一人、お一人に適した排便コントロールを考え、実践する事で下剤に頼らずに便秘を解消できるよう支援することを目標に、当園ではサンファイバーとオリゴ糖の摂取を推奨しています。

サンファイバーA1は2種類の水溶性食物繊維が配合され、常食だけでは不足する食物繊維を補給する手段として有効です。グァー豆酵素分解物 (PHGG) などの高発酵性水溶性食物繊維を日常的に摂取する事は、排泄自立のためのスムーズな排便に有用であり、熱にも強く料理の味も変えずに、水などにもサッと溶けます。そのため汁物に混ぜて使用することが可能です。

オリゴ糖は、ビフィズス菌（善玉菌）を生きのまま大腸まで届け活力となるシロップです。大腸の中で腸内細菌によって発酵し、腸内を酸性にする働きがあります。これにより、便秘の解消と善玉菌が増殖し整腸する効果があります。また、オリゴ糖は、途中で消化されずに腸まで届き、腸内でビフィズス菌などの善玉菌の食糧となって善玉菌を増殖させる効果があるため、乳酸菌と一緒に摂取すると善玉菌の効果がアップさせることができます。

そのため、ヨーグルトやヤクルトと併せて摂取をしていただく方もいます。

当園におけるサンファイバー、オリゴ糖の使用状況は以下の通りです。

ご入居者様	90名
サンファイバー使用者	14名
オリゴ糖使用者	22名

3 平成 28 年度施設サービス課 各部門実績報告

3-1 介護部門

1) チームケアの充実

①機能訓練の実施

機能訓練士をデイサービス、特養それぞれに配置し、介護職・看護職・管理栄養士・生活相談員との連携を強化した。日々のケアについて各職種の職員が機能訓練士に気軽に意見を求められる体制を整備した。

これにより、利用者の状況に応じて適切な評価を行った上で、集団体操、個別機能訓練、日常生活動作訓練を実施した。

②看取り体制の見直し

看取りマニュアルを見直し再度作成。看取りに対する入居者、及び家族の現在の意向を都度把握できるよう書類を整備した。

介護職員に対しては、看取りケアにおける新たな手順の徹底を周知した。看取りに対する意識改革、意識高揚を図るため、全職員に看取りマニュアルを配布した。今年度の看取りは4件実施、グリーンフカンファレンスも実施した。

2) 利用者の緊急時対応の見直しと周知

急変時・事故発生時・離設時の緊急対応マニュアルを見直し、再度作成し全職員に周知した。

安全対策委員会の主催で夜間緊急時対応を年2回実施予定だったが、9月に1回開催（参加者9名）したのみとなった。

3) 納涼祭の実施

毎年7月第2日曜日に実施するのが恒例となった稲毛こひつじ園納涼祭を今年も実施。萩台あざみ自治会、わかば自治会等、地域住民やボランティアの協力を得て開催することができた。

4) 職場体験学習の受け入れ

職場体験学習として、千草台中学校の生徒が今年も4名来てくれました。

5) 実習生の受け入れ

千葉県立特別支援学校市川大野高等学園の生徒を1名受け入れ、営繕の仕事に触れる機会を設けました。また千葉市の新規採用職員福祉施設研修の一環で24名の千葉市職員を受け入れ各ユニットに配属。介護現場の雰囲気を感じてもらいました。

6) 地域カフェ

毎月第2第4土曜日に地域交流室を解放し地域カフェを実施。地域の方と共に入居者も参加した。機能訓練士指導のもと、体操教室を実施し好評を博しています。普段と違う雰囲気の中で飲食ができることで、地域カフェを利用する地域住民、入居者は増加しています。

7) スキルアップ

①介護力向上講習会

当施設は入居者の能力に応じ自立した生活支援サービスを提供するため、科学的介護実践講座（国際医療福祉大学の大学院の竹内教授が主催する介護力向上講習会）に7年前より参加し科学的根拠を裏付けとした介護、自立性を取り戻す介護に施設全体で取り組んでいます。

基本ケアである水分・食事・排便・運動の各項目を介護生理学の視点から分析・理解・実施することによってADL（日常生活動作）・IADL（手段的日常生活動作）・QOL（生活の質）の向上に繋がっています。

その結果、排便はオムツではなくトイレで出来るようになった、食事形態が刻みやソフト食ではなく常食で食べられるようになったなど、自立に近い状態にADLが改善した例がいくつもあります。

②ユニットケア勉強会

ユニットケアを行うに当たり「暮らしの継続」を目指し、毎月第4火曜日に各ユニットリーダーがテーマ、ユニットでの取り組みを発表し勉強会を実施。参加者はリーダーだけではなく、医務、栄養、事務課、ユニット職員にて情報を共有し現場に生かすことができた。

③インストラクター研修

基本となる介護知識を持ち入居者、介護者双方にとって心身ともに負担にならない、美しい介護技術を習得することを目指し全8回の研修に8名の職員が参加。習得した介護技術をフロアごとに伝達講習を行った。しかし伝達が不十分なフロアもあるため、追加の伝達講習の場を設ける予定。

8) 日々のユニットでの取り組み

ユニットでの取り組みとして「食」に関するレクリエーションに1年間取り組みました。常食化はもちろんですが、個々の好みや楽しみとして入居者のリクエストに答える形で調理レクを行いました。反響が大きく再度同じメニューで提供することもあり、また、入居者と一緒に野菜の栽培、収穫、調理、食すといった一連のサイクルを実施。普段野菜があまり得意ではない入居者もたくさん召し上がっていただきました。

3-2 医務部門

【 目 標 】

1. 医療連携の充実を図る。
2. 地域に根ざしたこひつじ園の構築をサポートする。
3. 新規事業への協力

【 施策・評価 】

1) 医療連携の充実を図る。

①人員不足と勤務の関係で介護主催の勉強会の参加が困難であったため勉強会における勉強会サポートをすることが出来なかった。しかし、介護職員との日々の関わりの中で受けた質問や疑問に対して、その都度答え、ともに検討し取り組むことに努めた。その結果、職員間の連携の充実を図ることができたと考える。

今後も日々の関わりからより一層の連携の充実強化に努めていく。

また、勉強会へも可能な限り参加できるよう努める。

②受診依頼書や温度板、入院時や入院の可能性がある場合は看護・介護サマリーを医療機関へ提供し情報伝達に努めた。

また、入居者様の体調不良時は、各部門間で情報を共有し早めの受診対応に努め、結果大きなトラブルなく経過することができた。

今後も入居者様の心身の負担をかけないように、迅速に対応する。

2) 地域に根ざしたこひつじ園の構築をサポートする。

①イベント開催時では医務職員間で当日の動きを事前に話し合い、ユニットだけでなく、来園者が多く集まる場所の巡視も強化した。また、巡視だけではなく、イベントを手伝うことで来園者様と関わる時間を作るよう努めた。今後もイベント開催時には、医療的な部分だけでなく、施設の一員として参加するよう努め、構築のサポートに取り組んでいく。

②カンファレンスの参加やご家族様の面会時に、入居者様の状態をご家族様に伝え、挨拶や会話を交すことで関係性を高めていくよう努めた。結果、ご家族様との会話を持つ機会が増え、相談を受けることもあった。今後もご家族様とのコミュニケーションを積極的に持つよう心掛け、信頼関係を高めていくよう努める。

3) 新規事業への参加

入居者様への健康管理のサポートに関しては、介護職員だけでなく、相談員や管理栄養士ともコミュニケーションを図り、意見交換を重ね情報の共有に努めた。結果入居者様が日々穏やかに過ごすことができていた。今後も他職種との連携を高め、入居者様の健康管理のサポートに協力する。今後も新規事業への実施に向けて、各自が参加していく意識を持っていく。また、連携・情報共有を図れるよう備えておく。

【診療内容】

	内科	施設内 受診合 計	外部受 診	受診 付き添 い	オンコ ール数	内搬送	入院数	カンフ ァレン ス数	看取り
H28.4月	221	221	73	0	7	1	7	6	0
5月	192	192	73	0	9	3	6	3	1
6月	186	186	83	0	10	0	8	5	0
7月	188	188	88	0	5	0	6	3	0
8月	156	156	67	0	9	0	9	2	1
9月	138	138	88	0	6	0	5	1	1
10月	167	167	93	0	6	0	8	1	0
11月	164	164	79	0	6	0	5	0	0
12月	166	166	98	3	6	3	4	1	0
H29.1月	166	166	81	0	7	0	7	2	1
2月	123	122	86	0	1	0	8	2	0
3月	172	172	74	0	3	2	5	2	0
合計	2039	2039	983	3	75	9	78	28	4

【医療連携／入院件数（病院別）】

対象期間	入院先病院	件数
平成 27 年 4 月 ～ 平成 28 年 3 月	稲毛病院	175
	みつわ台病院	45
	高洲訪問CL	479
	医療センター	13
	四街道徳洲会病院	22
	柏戸病院	22
	山王病院	5
	斉藤労災病院	7
	青葉病院	6
	千葉大	3
	合計	777

【死亡退去者の状況】

死亡日	年齢	死因	看取り場所	施設看取り
平成 28 年 4 月 26 日	106	老衰	四街道徳洲会病院	
平成 28 年 5 月 4 日	101	老衰	稲毛こひつじ園	29 件目
平成 28 年 6 月 26 日	95	胆管炎	稲毛病院	
平成 28 年 8 月 24 日	91	老衰	稲毛こひつじ園	30 件目
平成 28 年 9 月 20 日	85	老衰	稲毛こひつじ園	31 件目
平成 28 年 11 月 2 日	92	多臓器不全	斎藤労災病院	
平成 28 年 12 月 25 日	84	誤嚥性肺炎	柏戸病院	
平成 29 年 1 月 12 日	92	老衰	稲毛こひつじ園	32 件目
平成 29 年 2 月 9 日	95	平滑筋肉腫	千葉県がんセンター	
平成 29 年 2 月 17 日	105	老衰	稲毛病院	
平成 29 年 2 月 25 日	82	肺水腫憎悪	高洲訪問クリニック	

【長期入院での退所者（施設復帰のメドが立たないため 退所）／その他】

退所日	年齢	病名	
平成 28 年 4 月 9 日	76	誤嚥性肺炎	みつわ台総合病院退院の目途立たず
平成 28 年 5 月 12 日	85	誤嚥性肺炎	四街道徳洲会病院退院の目途立たず
平成 28 年 5 月 17 日	82	誤嚥性肺炎	稲毛病院退院の目途立たず
平成 28 年 7 月 18 日	88	肺炎	柏戸病院退院の目途立たず
平成 28 年 7 月 26 日	82	全身状態低下	入院加療必要、家族希望にて
平成 28 年 10 月 14 日	85	全身状態低下	入院加療必要、家族希望にて
平成 29 年 1 月 7 日	68	全身状態低下	入院加療必要、家族希望にて
平成 29 年 2 月 28 日	84	脳梗塞	脳梗塞経口不可、家族希望にて

3-3 施設サービス課 生活相談員部門

【 目 標 】

1. 法人内外・各医療機関・他福祉施設との連携による入居稼働率の維持
2. 認知症利用者受け入れへの理解・看取り介護の推進
3. 利用者・家族、地域との信頼関係の構築

【 施策・評価 】

- 1) 法人内外・各医療機関・他福祉施設との連携による入居稼働率の維持

累計稼働率 99.8%

*入退所：各22名

*入院者：47名

- ① 半年ごとの入所申込者の現状確認の連絡を行う事により、スムーズな入所受入に結び付けることができた。即入所を希望している申込者20名ほどについては毎月状況確認を行っている。
 - ② 入所相談時の段階で詳細な情報収集を行い、各部署へ意見を求め面談し入所判定会議を実施できた。
 - ③ 入院者等の空き居室について、ショートステイ待機者の確保ができず、ショートステイの稼働目標100%の達成に貢献できなかった。
- 2) 認知症利用者受け入れへの理解・看取り介護の推進
 - ① 介護力向上での取り組みや、施設内会議・研修等で認知症に対する知識・対応等修得していけるよう自己研鑽に努めた。
 - ② 入所契約時、本人の状態について十分に時間を取って家族と話し合いお互いの共通理解を深めることができた。
 - ③ 看取り介護について、家族への説明と家族・各部署での共通認識を持つことができた。また、看取りカンファレンスを定期的を実施していくことにより、本人・家族の変化する意向等を確認しながら看取り介護に取り入れることができた。
 - 3) 利用者・家族、地域との信頼関係の構築
 - ① 家族面会時での状況報告、相談、意向確認。また、入所後1か月、介護認定の更新時は必ずカンファレンスを実施。医療機関退院後など、状態変化が見られる際は随時カンファレンス開催し家族との情報共有に努めた。
 - ② 納涼祭などの行事、地域カフェの開催により施設のある萩台町の自治会を中心に地域との交流を深めることができた。

3-4 施設サービス課 介護支援専門員

【 目 標 】

1. 情報収集による生活課題の明確化
2. 施設サービス計画書の作成、業務の適正な遂行
3. 看取り対象者へのケアプラン作成とカンファレンスの実施

【 施策・評価 】

- 1) 情報収集による生活課題の明確化
 - ① 各部署との良好な関係によって、より細かな情報を共有し把握するよう努めた。基本的には介護保険更新時に家族出席での担当者会議を必ず開催。また、利用者の状態に合わせたカンファレンスを適宜実施することで管理する事ができた。
 - ② 書類を取り交わし、個人情報の取扱い・管理に努め、家族からの要望時は情報の開示も行うこととした。
 - ③ 利用者に見合った施設の紹介や必要と思われる福祉用具の提案等、積極的に行うよう務めた。
- 2) 施設サービス計画書の作成、業務の適正な遂行
 - ① 更新期間を厳守し、各部署からの情報を融合し、利用者・家族に分かりやすい言葉・内容で作成する事に努めた。
 - ② 計画書作成後も、サービス内容の実施・達成状況を常に行う事とした。
- 3) 看取り対象者へのケアプラン作成とカンファレンスの実施

嘱託医の看取り診断を受け、看取りケアプランを作成しカンファレンスを実施した。看取りカンファレンスについては、7～10日又は必要に応じて実施し、最期に向けて御家族・各部署と情報を共有し連携を図る事ができた。

ケアプランの立案数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通常	14	14	13	12	20	17	17	15	15	14	17	16	184
看取り	1	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	5

3-5 施設サービス課 栄養部門

【 目 標 】

- 1 季節感のある食事作りと楽しみのある食事
- 2 利用者の状況及び意向に応じた食事提供
- 3 口から安全に美味しく召し上がっていただく環境の整備

【 施策・評価 】

1) 季節感のある食事作りと楽しみのある食事

- ① 委託会社より提出される献立を施設栄養士と各部署で確認
食事内容について他部署から意見が出る環境を作り、見直しの機会を設ける。
⇒日々のミールラウンド時に各ユニット職員への声掛けを行い、リーダー以外の職員からも意見の出せる環境作りに今後も努めていく。
- ② 『主菜セレクト食』の実施（特養：年1回、デイサービス：毎日実施）
⇒特養は前年までは7月土用の丑の日に合わせ「うなぎ」か「カツ煮」の主菜セレクトを実施していたが、平成28年度については原則「うなぎの蒲焼き」の提供とした。
デイサービスについては、イベント食を除き毎日実施した。
- ③ 月1回『給食運営会議』を開催、施設・委託会社との話し合いの場を設け御利用者様のニーズに対応出来る体制の構築
⇒施設職員に寄せられている御利用者様の声を会議内にて提起し、改善策の検討を行った。
加えて、平成28年度については会議内において食事提供に関する事項の見直しを図り、御利用者様にとってより良い食事提供を実現すべく検討を行った。
- ④ 月2回イベント食の実施（季節の果物、人気料理提供）
⇒イベント食は、前年までの郷土料理提供(第4土曜日)を廃止し、ご利用者様より人気の高い天麩羅・ちらし寿司・刺身等を中心に提供を行った。イベント食に併せて、常食化推進の為にソフト・ペースト食以外のご利用者様へ『米飯・常菜形』での提供を行い、目で見ても楽しめる食事提供に努めた（月1回）。平成28年度より開始した『こひつじカフェ(第2・4土曜日開催)』に極力日程を合わせ、近隣地域にお住まいの方々にもイベント食の提供を開始した。次年度も同様に提供を予定している。

⑤ 開園 10 周年の特別な食事の実施（11 月）
⇒11 月 3 日開催の『10 周年文化祭』に合わせてイベント食を設定し、御利用者様から人気の高いネギトロ丼を提供した。

⑥ 委託業者の検討を行う
⇒委託会社の見直し・検討等を行うが、変更には至らず。

2) ご利用者様の状況及び意向に応じた食事提供

① 各委員会と会議において情報共有と話し合いを行い、随時栄養ケア計画書の作成。今後も適宜内容の見直しを行い、定期的に作成していく。

② 特養ユニットで副食のユニット盛り付けを導入。6 月 1 日より配膳スタッフが配置され、3 丁目 1 番地にて昼食のみ実施している。
6 月時点で 3 階在籍の介護職員へ盛り付け方法等は指導を行った。
3 階から順次開始予定としているが、平成 28 年度は 1 ユニットのみの実施に留まった。次年度は、ユニット盛り付け実施ユニットが拡大できるように、各部署へ意識の定着に努めたい。

③ 年 1 回の嗜好調査を 12 月に実施し、2 月給食運営会議にて調査報告を行った。

3) 口から安全に美味しく召し上がっていただく環境を整える。

① ミールラウンドを行い、御家族様・各部署と相談しながら経口からの摂取を維持していけるように、摂食・嚥下障害があり尚且つ訪問歯科を定期的に受診されている入居者様に対して経口維持計画書の作成を開始した。（平成 29 年 3 月時点で 16 名作成）
今後も訪問歯科医の指示のもと、摂食・嚥下障害があり尚且つ訪問歯科を受診されている方が出た場合、随時経口維持計画書の作成を行う。

介護老人福祉施設

月	特養				ショート			
	朝	昼	おやつ	夕	朝	昼	おやつ	夕
4月	2559	2539	2530	2560	448	489	455	449
5月	2626	2602	2595	2626	424	456	438	424
6月	2519	2499	2485	2517	397	419	404	402
7月	2622	2566	2589	2544	467	494	470	451
8月	2634	2595	2600	2632	437	476	468	443
9月	2559	2518	2529	2560	449	488	466	458
10月	2636	2529	2603	2637	451	490	475	454
11月	2575	2544	2544	2575	406	451	433	410
12月	2619	2569	2578	2613	478	513	484	479
1月	2582	2441	2451	2579	449	477	460	450
2月	2356	2320	2331	2355	402	433	416	402
3月	2642	2605	2598	2643	465	517	491	467
総数	30929	30327	30433	30841	5273	5703	5460	5289
平均	2577	2527	2536	2570	439	475	455	441

9-2 通所介護

月	昼								おやつ
	合計	肉系		魚介系	その他(丼物・カレー等含む)		行事食		
		A食	B食	A食	B食	A食		B食	
4月	626	18	1	2	20	4	3	2	599
5月	624	19	2	2	15	3	7	2	505
6月	664	18	2	3	16	3	6	2	639
7月	675	21	0	1	18	3	5	2	645
8月	694	19	3	1	14	4	7	2	665
9月	648	23	0	0	19	2	6	2	648
10月	647	18	2	1	15	5	7	2	653
11月	660	17	1	2	17	5	6	2	660
12月	635	20	2	1	21	4	4	2	635
1月	543	17	1	1	16	3	4	3	498
2月	541	18	1	0	16	4	4	2	516
3月	603	19	3	3	19	3	3	2	554
総数	7560	227	18	17	206	43	62	25	7217
平均	630	19	2	1	17	4	5	2	601

※主食セレクト『米飯 or 変わり飯』又は『米飯 or パン』又は『米飯 or 麺』を週1回程度実施

9-3 職員

月	朝	昼	夕
4月	30	567	30
5月	31	622	31
6月	30	627	30
7月	31	627	31
8月	31	681	31
9月	30	681	30
10月	31	650	31
11月	30	672	30
12月	31	679	31
1月	31	612	31
2月	28	617	28
3月	31	668	31
総数	365	7703	365
平均	30	642	30

9-4 栄養ケアマネジメント

月	特養			
	低リスク	中リスク	高リスク	総数
4月	33	52	4	89
5月	30	56	2	88
6月	34	50	2	86
7月	30	52	3	85
8月	31	55	2	88
9月	29	55	4	88
10月	32	52	4	88
11月	34	53	2	89
12月	30	54	2	86
1月	26	58	2	86
2月	25	59	2	86
3月	28	58	2	88
総数	362	654	31	1047
平均	30	55	3	87

9-5 行事食の状況

月	日	行事名	行事食
4	8	イベント食	花見弁当（桜ちらし）
	30	イベント食	ロールパンサンド
5	5	イベント食	端午の節句（おこわ・かつおたたき）
	〃	おやつ	和菓子（真鯉）
	28	イベント食	山菜ちらし
6	11	イベント食	入梅献立（ざる蕎麦・天ぷら盛り合わせ・梅肉料理）
	25	イベント食	助六寿司・旬の果物（メロン）
7	7	イベント食	七夕そうめん
	23	土用の丑の日	鰻の蒲焼き
8	13	イベント食	涼風膳（鮭の親子ちらし寿司）・旬の果物（ぶどう）
	27	イベント食	ざるうどん・天ぷら盛り合わせ・旬の果物（梨）
9	18	敬老会[祝い歳]	祝い膳（握り寿司・海老の鬼殻焼き）
	〃	〃 [特養]	祝い膳（赤飯・天麩羅盛り合わせ・海老の鬼殻焼き）

	19	おやつ	敬老の日(寿饅頭)
	22	おやつ	秋分の日 (おはぎ)
	24	イベント食	天井・旬の果物 (梨)
10	10	イベント食	体育の日 (いなり寿司)
	22	イベント食	秋刀魚の塩焼き (一人一尾付け) ※2階テラスでの炭火焼き実演
	31	おやつ	ハロウィン (南瓜タルト)
11	1	おやつ	開園記念日 (祝い印入りどら焼き)
	3	10周年文化祭	ねぎとろ丼
	26	イベント食	天ぷら盛り合わせ
12	21	冬至	夕：南瓜のいところ煮
	24	クリスマス・イブ	チキンライス
	〃	おやつ[デイ]	クリスマスケーキ
	〃	おやつ[特養]	和菓子 (サンタクロース)
	25	おやつ[特養]	クリスマスケーキ
	28	おやつ	餅つき (お汁粉)
	31		夕：大晦日 (年越し蕎麦)
1	1	元旦	正月料理 (朝：雑煮風汁)
	〃	〃	正月料理 (昼：鮭の刺身・おせち盛り合わせ)
	〃	おやつ[特養]	上用饅頭・甘酒
	4	おやつ[デイ]	上用饅頭・甘酒
	7	七草	朝：七草粥
	11	おやつ	鏡開き (餅入りお汁粉)
	17・18	新年会	バイキング (シダックスへ依頼)
	28	イベント食	ちらし寿司・天麩羅盛り合わせ
2	3	イベント食	節分の日献立 (恵方巻・卵巻寿司・いわし梅しそフライ)
	〃	おやつ	和菓子 (赤鬼)
	14	おやつ	バレンタイン (チョコレートケーキ)
	25	イベント食	鮭ネギトロ丼
3	3	イベント食	雛祭り献立 (ちらし寿司)
	〃	おやつ	和菓子 (女雛) ・甘酒
	25	イベント食	松花堂弁当 (豆ごはん)

3-6 居宅サービス課 短期入所生活介護（ショートステイ）部門

【 目 標 】

1. 「自らが利用したい。家族が利用させたい」と思えるような、利用者が安心して住み慣れた地域で生活できるよう個々のニーズにあった介護サービスを提供する。
2. 心身ともにより生活しやすい環境を整え、利用者が安心して生活が送れるよう各部門や外部機関と連携し支援する。
3. 常に利用ニーズを検討し、必要ニーズに対応した支援を行う。

【 施策・評価 】

- 1) 自らが利用したい。家族が利用させたい」と思えるような、利用者が安心して住み慣れた地域で生活できるよう個々のニーズにあった介護サービスを提供する。

(1) より質の良いサービスの提供

- ① 利用者の趣味や特技を引き出し個々で行うレク（習字・囲碁・手芸等）の推進をはかることができた。
- ② 外出や食事など季節に応じた行事を企画し楽しんでいただける行事を毎月実施することができた。
- ③ 利用者の精神的安定を図る為、認知症の理解に努めるように研修などに参加することが出来なかった為、研修などへの積極的な参加に努めたい。

(2) ご家族・担当ケアマネージャーとの連携を強化し信頼関係を構築

- ① 報告・連絡・相談を密に情報の共有化を図り信頼関係を構築することに努めたが情報が足りない部分が多々あった為、今後はそのようなことがないように情報の共有化を図り共通認識の上で受け入れ、信頼関係を構築していく。
- ② 他事業所への営業の際、こひつじ園での取り組みを情報発信していくことはできた。
- ③ ご家族・担当ケアマネージャーが面会しやすい雰囲気作りに努めることができた。

- 2) 心身ともにより生活しやすい環境を整え、利用者が安心して生活が送れるよう各部門や外部機関と連携し支援する。

(1) 高洲訪問クリニックや施設内での連携強化

- ① 高洲訪問クリニックや施設内での情報の共有化を図り、常に報告・連絡・相談・確認を行うことにより適切で円滑なサービスの提供に努めることができなかった部分があった為、必ず施設内での情報の共有化を図る為、報告・連絡・相談・確認を行い円滑な

サービスの提供に努めるようにする。

(2) 他事業所や医療機関・地域等の外部機関との連携強化

- ① 他事業所や医療機関等の関係機関との連絡を密にするため、各事業所に実績を持参する際、最近のショート利用のニーズ等の情報を収集し、更にショートの空室情報を発信することで情報の共有化を図り利用者が安心して在宅生活が送れるよう環境整備に努めることはできた。
- ② 地域への情報発信(季節のイベントや足湯体験の実施等)に努め、地域交流できる環境を整え、地域関係者との連携を強化し地域に密着したサービスの提供に今後も継続して努めていく。

3) 常に利用ニーズを検討し、必要ニーズに対応した支援を行う。

(1) 利用者・家族の個々の問題やニーズの把握に努める。

- ① 利用者・家族とのコミュニケーションを大切にし、個々の抱えている問題やニーズを引き出し把握は概ねできたが、看取りの部分での把握及び認識不足な面があった為、今後その部分での把握・認識不足のないようにする。
- ② 利用者・家族が話しやすい環境の雰囲気作りを行う為、ご家族様の見学や面会がいつでもできるよう配慮することができた。

(2) 今後増加すると思われる困難ケースへの対応検討

- ① 困難ケースの依頼があった際には各部署との情報共有し、都度相談しながら対応の検討を行っている。しかし受け入れへつなげていくことは実際に難しい。特に利用したくても緊急時に対応できる保証人様がない場合も多く利用断念のケースも増えてきている。今後は困難ケースの出来ること・出来ないことを再度、各部署とも相談しながら対応方法を検討していく。
- ② 利用者の多様性と個性の理解に努め、利用につなげる対応策の検討を行っていたがなかなか利用率が上がらなかった為、異なる目線による対応策の検討を行い利用につなげたい。

(3) 定期利用者、新規利用者の確保

- ① 空室が出ないようキャンセル待ちや新規利用者の受け入れ態勢がすぐに行えるよう努めたが実際に利用率が上がらなかった為、空室が出てしまった。
- ② 緊急ショート(美浜区からの依頼。独居<1件>家族の入院による介護者不在<3件>退院後、在宅復帰困難者<10件>)受け入れに対し柔軟な対応に努めることは前年度に比べ他部署の協力もあってできていた。

- ③ 施設入所者の長期入院に伴う空室 727 件に対し空室利用できたのは 57 件だった。
- ④ 他事業所へ空き情報を毎月配信するとともに、可能な限り居宅事業所を回り営業を行った。新たな利用依頼を受けることが出来た。今後も更に営業活動を継続して空室情報の配信を行い利用者の確保につなげていきたい。

<送迎実施地域>

区	町				
稲毛区	長沼町	小仲台	園生町	天台	穴川
	小中台				
	作草部	萩台町	柏台	轟町	黒砂
	弥生町				
	稲毛町	千草台	宮野木町	稲毛東	
若葉区	若松町	若松台	貝塚町	都賀の台	
中央区	中央	春日	東千葉	登戸	弁天
花見川区	畑町	作新台	朝日が丘	さつきが丘	
美浜区	真砂				
その他	四街道市（つくし座）				

<要介護度別利用状況>

() 内は平成27年度

	男	女	計
要支援1			
要支援2			
要介護度1	1 (0)	4 (4)	5 (4)
要介護度2	0 (1)	4 (6)	4 (7)
要介護度3	5 (1)	9 (8)	14 (9)
要介護度4	2 (5)	7 (6)	9 (11)
要介護度5	0 (0)	5 (8)	5 (8)
計	8 (7)	29 (32)	37 (39)

<新規契約数>

() 内は平成27年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
男	3 (0)	2 (0)	4 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (1)
女	3 (4)	4 (0)	4 (3)	1 (1)	5 (3)	3 (2)
計	6 (4)	6 (0)	8 (3)	2 (1)	6 (4)	3 (3)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	0 (1)	2 (1)	1 (1)	1 (0)	0 (0)	1 (1)
女	3 (2)	1 (2)	2 (0)	5 (2)	1 (8)	1 (1)
計	3 (3)	3 (3)	3 (1)	6 (2)	1 (8)	2 (2)

<稼働率>

() 内は平成27年度

	実績	稼働率	累計 稼働率
4月	494 (515)	91.5 (94.5)	96.5 (95.4)
5月	472 (539)	84.6 (96.6)	90.6 (96.0)
6月	441 (533)	81.7 (98.7)	86.2 (96.9)
7月	519 (539)	93.0 (96.6)	89.6 (96.8)
8月	511 (572)	91.6 (102.5)	90.6 (98.0)
9月	503 (525)	93.1 (97.2)	91.9 (97.8)
10月	507 (553)	90.9 (99.1)	91.4 (98.0)
11月	463 (513)	85.7 (95.0)	88.6 (97.7)
12月	534 (535)	95.7 (95.9)	92.2 (97.5)
1月	505 (508)	90.5 (91.0)	91.4 (96.8)
2月	447 (489)	88.7 (93.7)	90.1 (96.5)
3月	525 (551)	94.1 (98.7)	92.1 (101.4)
計	5,921 (6,372)	90.12	91.3

<行事>

月	行事
4月	外出（いちご狩り）
5月	おやつ作り（水羊羹）、外出（千葉都市緑化植物園）
6月	外出（千葉市動物公園）
7月	おやつ作り（アイスクリーム）、納涼祭
8月	流しそうめん、昼食出前（寿司）
9月	敬老会、外出（とんでん・ダイソー）
10月	なし
11月	文化祭、外出（三陽フラワ
12月	おやつ作り（ミルク饅頭）、外出（千葉ポートタワー）
1月	初詣（千葉神社）
2月	節分、おやつ作り（焼き芋）、昼食出前（寿司）
3月	おやつ作り（桜餅）

3-7 居宅サービス課 介護予防通所介護・通所介護

【 目 標 】

1. 近隣地域と共に築くデイサービス
2. 職員の資質向上（利用者の信頼に応えうる人材育成）
3. ご利用者の思いを尊重したハンドメイドサービス

【 事業概要 】

営業日 … 月曜日～土曜日(祭日含む)1月1日～3日は休業
 サービス提供時間 … 9：00～16：15
 利用定員 … 30名（12月1日から、定員を25名に変更）

【 サービス内容 】

送迎サービス・食事の提供・入浴・レクリエーション・生活相談
 健康チェック・その他、必要な介護
 個別機能訓練（4月のみ一時休止、5月から再開）

ご利用者の状況（3/31現在）

(1)年齢構成

年 齢	男	女	計
50～59	1	0	1
60～69	2	3	5
70～79	8	8	16
80～89	19	39	58
90～	3	21	24
合 計	33	71	104
最高年齢	93	105	
最低年齢	54	68	
平均年齢	78.2	85.4	81.8

(2)介護度内訳（3/31現在）… 平均介護度：1.9

介護区分	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
人 数	2	4	25	27	14	11	7

(3)新規利用受入れ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	6	2	2	6	2	3	2	0	1	1	1	1	27

(4)終了理由

理由	入所	転居	入院	死亡	療養	本人・家族希望	お断り
人数	8	0	4	0	0	3	0

(5)月間利用状況 延べ人数 12月～利用定員 25名に変更

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
営業日数	26	26	26	26	27	26	26	26	27	24	24	27	311	26
平均利用人数	24.2	24.8	25.5	26.0	25.7	25.8	26.0	25.4	23.5	23.6	22.5	22.3	295.3	24.6
月合計	629	644	663	675	695	670	676	659	634	566	541	603	7655	637.9
稼働率	80.6	82.6	85.0	86.5	85.8	88.9	86.7	84.5	93.9	94.3	90.2	89.3	1056.4	88.0

ボランティアの受入れ状況

(1)新規受入れ状況

開始月	団体名：内容
5月～	アコーディオン演奏：個人（毎月第2土曜日・2名）
6月～	傾聴・雑用等：個人（毎週月・金・1名）
12月～	毎週木曜 雑用（個人） 3月末日都合により休止
3月～	ギター+手品 不定期（個人）

(2)定期受入れ状況

受入日	団体名：内容
第1水曜日（奇数月）	萩の会：日本舞踊（隔月（奇数月：1回）・6～7名）
第1金曜日	ゆる体操：個人（月1回・1名）
第2火曜日	俳句で遊ぼう：個人グループ（月1回・3～4名）
第2木曜日	カラオケ道場：個人（月1回・3名）10月～休止中
第2土曜日（偶数月）	アコーディオン演奏：個人（月1回・2名）8月～休止中
第2・4金曜日	音楽ボランティア：個人グループ（月2回・5～6名）
第3水曜日	ハーモニカ演奏：個人（月1回・4名）
第3金曜日	ゴムバンド体操：個人（月1回・1名）
第4金曜日	絵手紙教室：個人グループ（月1回・4名）
毎月最終月曜日	カレンダー色塗り・編み物：個人（月1回・1名）
毎月最終木曜日	リハビリ体操：個人（月1回・1名）7月～休止
毎週木曜日	傾聴・歌唱：個人（毎週1回・1名）
毎週火曜日（午後）	傾聴・雑用：個人（毎週1回・1名）
毎週金曜日（午前）	傾聴・雑用：個人（毎週1回・1名）
毎週不定期	傾聴・雑用：個人（毎週1回・1名）

不 定 期	落語を聴く会：個人（3ヶ月に1回・3名）
	さくら会(三味線歌唱)：個人グループ（月1回・4~5名）
	マジックショー：個人（不定期・1名）～休止中
	ブルーモアナ(ウクレレ)：グループ（不定期・7~8名）
	ギター演奏：グループ（不定期・3名）
	オカリナ演奏グループ(年1回・7~8名)

年間行事

	内 容
4月	お花見(スポーツセンター・おやつ(フレンチトースト)作り・第10回落語の会・書道・桜の湯
5月	外食ツアー(千葉県庁)・萩の会・マジシャンビリーのマジックショー・カーネーション作り・おやつ(フルフルもっちり豆乳)作り・セレクトレク・書道・菖蒲の湯
6月	小物(蛙の張子)作り・外出(三陽メディアフラワーミュージアム)・ふれあい書道展出品・バラの湯
7月	納涼祭・七夕・萩の会・外出(千葉市科学館プラネタリウム)・流しそらめん・おやつ(ところてん)作り・書道・ラベンダーの湯
8月	小物(張子風鈴)作り・すいとん作り・小物(団扇)作り・夏の運動会・セレクトレク・書道・ミントの湯
9月	オカリナ演奏・萩の会・外食(一幸)・秋の運動会・書道・月夜の若草の湯
10月	曜日対抗運動会・ハーモニカ演奏(アニモ)・やきいも作り・秋刀魚の炭焼き・第11回落語の会・ハロウィン借り物競争・書道・初秋の湯
11月	稲毛こひつじ園10周年記念式典(第12回落語の会)・萩の会・花紙アート(赤富士)作り・さざなみ会三味線演奏・文化祭・書道・みかんの湯
12月	第13回落語の会・餅つき大会・クリスマスイベント・書道・年末クイズ大会・ゆず湯
1月	小物(干支鳥の壁掛け)作り・萩の会・新年会(昼食バイキング)・おやつ(りんごのコンポート)作り・書道・松の湯
2月	豆まき恵方巻きゲーム・書道・おやつ(ハートチョコ)作り・雪見の湯
3月	雛まつり・ギター演奏(ハッピーアミーゴ)・おやつ(洋風おこし、おはぎ)作り・萩の会・尺八演奏会・第13回落語の会・巨大ジェンガ大会・書道・蓬の湯
	食 事：主菜セレクト(毎日)・季節料理(節句・毎月末土曜日) おやつ：ドリンクセレクト

研修

	内 容
4月	チームワーク向上研修・プチ研修(利用計画書読み合わせ)
5月	接遇研修・リーダーシップ強化研修・認知症サポーター養成講座・理学療法士スキルアップ研修・プチ研修(認知症サポーター養成講座報告研修)
6月	プチ研修(モニタリングの書き方)
7月	リーダーシップ強化研修・安全運転講習会・プチ研修(安全運転講習会報告研修)
8月	シナプソロジーセミナー・プチ研修(食事介助の留意点)
9月	リーダーシップ強化研修・介護技術インストラクター養成研修・プチ研修(シナプソロジーセミナー報告研修)
10月	介護技術インストラクター養成研修
11月	介護技術インストラクター養成研修・プチ研修(吸引機の使い方)
12月	リーダーシップ強化研修・介護技術インストラクター養成研修・プチ研修(介護技術インストラクター養成講座研修報告①)
1月	プチ研修(介護技術インストラクター養成講座研修報告②)
2月	手洗い研修
3月	プチ研修(デイサービスにおける確認事項)
毎月	(※)第3火曜日に、定例会議に併せて開催・その他、外部研修

実施状況

- (1) 地域に根ざしたデイサービスを目指すために地域活動（防犯パトロール）への参加協力や納涼祭や文化祭において地域の方々と積極的に交流を図ってまいりました。
- (2) ご利用者・ご家族・居宅介護支援事業所等との絆を深めるために
ご利用者ご家族には、利用・送迎時にコミュニケーションを図り情報交換しながら信頼関係が深められるようにしてまいりました。また、デイのほほえみだよりと、こひつじだよりを統合させる事が出来なかったので来年度への課題とします。
- (3) プロ意識を持った言葉遣い・気遣いを心がけるために
該当月に係る目標を立て、それを意識するように心がけながら業務を行いました。
社外研修については、月に1度程度は参加できていたので、引き続き参加する機会を設け、職員の資質が向上できるようにしていきます。
- (4) ご利用者の個々の状態に合わせたケアを実施するために
ケアプランに沿った目標を達成できるように担当介護支援専門員と連携を図りながら、サービス提供を行ってまいりました。それがご利用者・ご家族・担当介護支援専門員との関係(絆)が深められたと思います。

総括

今年度は、今後の介護保険制度改正で予測されている、地域支援事業の介護度範囲の拡大や報酬改定等を見据えながら、定員・人員配置等の大幅な見直しや今後の展望についてを重点に模索してまいりました

その一環として、利用定員の変更と人員配置の見直しを行いました。

来年度は、今年度達成できなかった事を達成する事と多様なデイサービスが増えてきている中、他施設とサービスの差別化を図る事に重点を置きます。

その具体的な展開としては、3月から開始した脳トレーニングツール：おとなの学校を定着させる事。そして、リハビリデイサービスを開設させる事を最要課題として進めていきます。

最終的には、ご利用者が住み慣れた地域で、安心していつまでも過ごせるように、要介護者を積極的に受け入れ、社会資源の一環としても地域に根ざした施設を目指していきます。

3-8 居宅サービス課 居宅介護支援センター

【 目 標 】

介護支援専門員の基本倫理（人権の尊重・主体性の尊重・公平性・中立性・社会的責任・個人情報保護）を常に忘れず、法令遵守のもと自立支援及び利用者本位の生活を送れるよう支援していく。

【 施策・評価 】

1. 居宅介護支援事業

(1) 新規受け入れ

①あんしんセンター及び直接利用者家族からの依頼を中心に新規受入れを行った。

目標実績件数 93 件/月 ⇒ 58 件/月

年度末延べ件数 1116 件 ⇒ 701 件 稼働率 95.6% ⇒ 68.3%

介護予防支援 利用者数 59 件 平均 4.9 件/月

②入退職により、人員の増減があったため件数が伸びなかった。

(2) 法令遵守し、安定した運営をする

平成 28 年 9 月～平成 29 年 2 月までの居宅サービス計画のうち、短期入所生活介護において紹介率が 80%を超えたため、平成 29 年 4 月分より半年間 200 単位の減算。

2. 要介護認定調査委託事業

目標 5 件/月 年度末延べ件数 60 件（3 人体制時）

実績 19 件/年 月平均 1.6 件

新規対応、他受託依頼と重なった 2 件以外対応した。

3. 職員の資質向上のための研修

- ・稲毛区 あんしんケアセンター（包括支援センター）主催の研修に参加。
- ・千葉市認定調査員現認研修参加

4. 関係機関との連携

- ・地域包括（あんしんセンター）との連携を図り、新規利用者の受入れを行った。
- ・稲毛区多職種連携会議に参加。地域の医療・保健・介護・福祉・行政の関係者と共に、支援対応困難事例の検討を行った。

- ・利用者様の入退院時地域連携シート等の活用。医師、看護師等の主催する研修会に出席し、地域病院ソーシャルワーカーとの名刺交換や情報交換などを実地した。
- ・利用者様のことについてサービス事業所と電話やFAX等で情報交換、連携を密にし、共有を図った。
- ・困難事例は、地域包括支援センターや行政と連携し対応した。

5. 地域とのつながり

- ・担当利用者様管轄民生委員と必要な情報共有(本人、家族の同意のもと)又担当者会議への参加依頼を行った。
- ・夏祭り行事は施設職員と共に運営に参加。夏まつりの誘い、当日来園した地域住民との交流を図った。

6. 法人内他事業所との連携

- ・デイサービス・ショートステイ・特養と利用者様の必要な情報を共有し連携を図ることで、スムーズに対応することができた。

【稼働率】

	要介護	要支援	新規	終了	稼働率
4月	57	4	1	3	89.8
5月	56	4	6	4	66.0
6月	60	4	1	1	70.2
7月	62	5	2	2	71.4
8月	63	5	3	1	70.7
9月	60	5	5	3	68.7
10月	60	5	3	1	57.2
11月	59	7	1	2	56.3
12月	59	6	2	2	55.8
1月	60	6	1	1	85.1
2月	52	6	1	2	74.3
3月	53	7	0	3	79.7

(注) 平成28年度まで稼働率(利用者数÷37)で算定していましたが、平成29年度より稼働率(利用者数÷39)で算定になります。

【 研修 】

	研 修	会 議
4月		稲毛区ケアマネ連絡会
5月	地域ケア研修会	天台地域ケアマネ連絡会
6月		
7月	介護支援専門員研修の変更点 認知症サポーター研修	稲毛区ケアマネ連絡会 天台地域ケアマネ連絡会
8月		
9月	事例検討会	天台地域ケアマネ連絡会
10月	地域ケア研修会 四街道市認定調査員現認研修	稲毛区ケアマネ連絡会
11月		天台地域ケアマネ連絡会
12月	事例検討会 千葉市介護認定調査員現認研修	稲毛区ケアマネ連絡会
1月		天台地域ケアマネ連絡会
2月	定期巡回・随時対応サービス普及促進セミナー 介護予防ケアマネジメント説明会	稲毛区ケアマネ連絡会
3月	事例検討会 稲毛区介護予防委託契約書類説明会	天台地域ケアマネ連絡会

【 認定調査 】

	委託自治体	実施場所
4月	調布市 台東区	有料 院内の郷 小規模多機能 たちばな
5月	四街道市 千葉市	特養 プラタナス 特養 ソレイユ千葉北 特養 稲毛こひつじ園
6月	市川市 千葉市	有料 サニーライフ千葉 GH ひこうせん
7月	市川市	有料 さくらの郷幕張
8月		
9月	四街道市	有料 百々花
10月	四街道市	有料 グランドマストやさしえ 都賀
11月	四街道市	有料 アーバンリビング稲毛
12月	中央区	サ高住 アンダンテみつわ台
1月	新宿区	サ高住 なごみの郷 有料 ハートフル・ニュー幕張
2月	台東区	山王病院
3月	四街道市 市川市	有料 ここち稲毛 有料 ラ・ナシカこぶけ 山王病院 福家千葉病院

3-9 施設サービス課 ボランティア部門

【 目 標 】

1. 各種演芸ボランティアを受け入れ、利用者の生活に刺激と楽しみを感じていただく。
2. 個人やグループのボランティアを受け入れ、地域住民との交流を促進する。

【 実施状況 】

ボランティアの受け入れについては話し相手、麻雀の対戦相手から、お茶出し、シーツ交換などの雑務全般までをこなしていただいております。入居施設に女性3名、男性1名と平成27年度より2名増加。デイサービスに女性6名、男性1名と平成27年度より4名増加しています。継続的な関わりを持っていただけるよう、当施設において実施していただきたいこと、実施しないていただきたいことを説明し、ご理解頂いた上で活動を開始しています。

既存の演芸ボランティア団体や個人については、カラオケ指導の先生が、ご自身の体力的な面が心配だからとカラオケボランティアは中止となりましたが、それ以外は継続して関わっていただくことができました。年間では100日程度、演芸ボランティアにご来園いただきました。

【 日程 】

俳句の会	毎月第1月曜日	俳句の作成
日本舞踊（萩の会）	奇数月の第1水曜日	日本舞踊の披露
傾聴フレンズ	毎月第2火曜日、第3月曜日	話し相手
音楽ボランティア（コスモス）	毎月第2、第4金曜日	ピアノ伴奏歌唱
ハーモニカ	毎月第3水曜日	ハーモニカ演奏 歌唱
絵手紙	毎月第4金曜日	絵手紙の作成
ゆる体操	毎月第1金曜日	古武道を基にした簡単な体操

【 今後の予定 】

花の手入れ・配膳・地域カフェの手伝い等をしていただける個人ボランティアを千葉市のボランティアセンターに募り、円滑な業務遂行につなげていきます。

3-10 機能訓練部門

【 目 標 】

特養施設内・ショートステイ機能訓練の実施

【 施策・評価 】

1 機能訓練の実施

H28.6/1 より特養施設内に理学療法士配属。特養施設内機能訓練を藤田治療院の訪問マッサージ実施者を引き継ぐ形で開始、機能訓練計画書雛型・個別訓練記録様式等作成した。

また、7月より施設内で集団体操開始と、こひつじカフェでも体操を開始した。9月よりSS個別機能訓練を開始することができた。

H29年3/31現在：特養個別機能訓練 54名 SS個別機能訓練 9名
特養集団訓練のみ 16名

2 その他

施設歩行器の管理を開始。ユニットスタッフへの介助動作指導やポジショニング等を依頼時に実施。デイサービス個別機能訓練計画書の見直し。褥瘡対策委員会・安全対策委員会・介護力向上委員会への参加。ほっとスペース稲毛ペコリーノでの「福祉用具専門相談員」講師実施。外部研修への参加（介護力向上講習会聴講、福祉用具サービス業務従事者講習会、リハケア塾）等を行なった。

3 振り返り

H28年度は特養内の機能訓練の立ち上げに関して下地作りができた状態。個別の訓練提供に拘ったため、施設内の全ての利用者と係ることが出来なかった。今後は全ての利用者の評価を実施できるよう業務調整していく。介助指導などは依頼時に随時行ってきたが、そういった対応以外にも全体への研修を実施できるようにしていきたい。地域カフェでの体操等の提供や、ペコリーノでの講師、外部研修への参加も可能な限り継続していく。

3-11 事務課 事務部門

【 目 標 】

1. 職員のスキルアップ支援
2. 職場環境の整備・美化を図り、働きやすい職場づくり
3. 地域社会との協働と貢献
4. 人材確保の強化
5. 新規事業の準備

【 施策・評価 】

1. 職員のスキルアップ支援

(1) 資格取得支援

職員各人のキャリアアップを図ることを目的とする、奨励金制度を広く認知させるための方策をとり、個々の職員の能力開発を援助していく。

また、夜勤職員に対しても防火管理者講習の受講を推進している

(実績評価)

○奨学金貸付制度及び支度金貸与制度を制定した

奨学金貸与制度・・・利用者5名

支度金制度・・・利用者3名

(2) 外部研修、教育など自己啓発の支援

「OJT」や「OFF-JT」を柱として人材育成を進めていく。

(3) 人が人に対して提供するサービスであるため、「介護の知識と技術」や「高齢者と共感」ができる人材を育成する。また、チーム力を上げ、お互いを助け合える職場環境を整えるための外部でのカンファレンス等を実施する。

2. 職場環境の整備

環境美化を図り、働きやすい職場づくりを徹底する。

3. 地域社会との協働と貢献

(1) 広報の強化・広報誌やホームページを通じ、施設情報の公開を随時おこなう。

(2) ボランティアの活動内容を明確化し、積極的に希望者の積極的に受入れをおこなう。

(3) 「地域の方々やご高齢者を支える皆さまの心のよりどころとなる場所」を目指し、地域カフェを提供し、地域からのボランティアの活用を図る。

4. 人材確保の強化

(1) 在籍職員のキャリアアップを図る。

(2) 新卒を含む新規人材の確保を図る。(紹介会社、ハローワーク等の活用)

5. 新規事業の準備

隣接駐車場開発やその他新規事業についてのマンパワーを含めたバックアップ体制を作る。

3-12 新規プロジェクト部門

【 目 標 】

入居者・利用者・その家族・職員・地域住民の対して社会福祉法人としての地域貢献及び職員の満足度のアップを謀る。

1. 隣接駐車場へ新規事業展開（平成30年開設予定）
2. 社会福祉法人初穂会創立10年記念事業を行う

【 実績・評価 】

1. 隣接駐車場へ新規事業展開

(1) 隣接駐車場の土地購入への資金計画を立案

- ① グループ不動産会社との購入金額の折衝
- ② 近隣地主との調整（理解と承認）
- ③ 引き続き隣接駐車場の展開を計画していく

(2) 東京都中野区において 新規特別養護老人ホーム及び老人保健施設の公募が発生し、その応募を行った。資本金制限が設定されていたため、当施設は該当外と判明し、辞退に至った。

(3) 千葉市稲毛区轟町にて特別養護老人ホームの公募がありこれに応募。 結果：次点となり公募漏れとなった。

(4) 船橋市にて特別養護老人ホームの公募がありこれに応募 結果：次点となり公募漏れとなった

上記により、駐車場開発は一時中断、次期事業計画へ再度組み込むこととなった。

2. 社会福祉法人初穂会創立10年記念事業（プロジェクトチームの発足）

(1) 10年祝賀行事の開催。

- ① ネーミング入りTシャツの作成
- ② 永年勤続の表彰
- ③ 10周年記念リーフレットの作成し、行事委員会へ業務移行とした

4 各委員会実績報告

4-1 安全対策委員会

【 目 標 】

利用者様の高齢化、重度化に伴い介護事故が利用者様の全身状態に与える影響が大きい事を認識し、全職員が知識・技術を研鑽し適切で速やかな対応が出来る様研修を通じ習得を図る。

介護事故の原因究明・防止策立案が重要であり、施設全体の組織的な対策推進こそが事故を防止し安心して介護サービスを受けられる環境を整備する。

【 実 施 状 況 】

1. 事故の把握、分析、防止策検討・ワイズマンの活用…30%

事故の把握、分析、防止策検討は委員会開催の際に行っているが現場ユニットにて更なる反映ができるような具体的な話し合いができなかった。今後、事前に話し合う内容をまとめ、委員会または臨時ミーティングにて効率よく話し合いの場を作る必要がある。また、今年度までケースの把握分析等にワイズマンを活用できていない為 29 年度以降活用課題とする。

2. 防止策の実践できる組織体制整備・構築…20%

防止策の実践・評価の体制が十分に構築できずに終わってしまった。話し合いメンバーとして 29 年度、各階の委員会メンバー、ユニットリーダーを中心とした体制を作っていく。また、29 年度は事故報告書の取り扱いについて有効活用できるようにしていく。そのために事故報告書を各ユニットリーダーだけではなく、所属階の委員にもコピーを提出してもらいようにし事故の把握をしてもらう。緊急性の高い事故に関しては速やかにリーダーと各階委員で防止策を考え実践・評価をしてもらい、組織体制の強化を図る。更なる具体策は 29 年度事業計画に掲載する。

3. 安全対策に関する研修会開催（年 2 回開催）緊急対応含む…50%

第 1 回研修会（夜間緊急時対応）9 月 29 日・・・参加者 9 名

第 2 回研修会 未開催 委員会メンバーの日程調整に折り合いが付かず未開催となった。29 年度は最低年 2 回開催実施を目指し準備していくこととする。また、職員に対し研修希望アンケート等で意見を聴取し職員ニーズに沿った研修開催に努める。

4. 新入職員、中途採用職員に対しての研修…80%

第1回研修会（夜間緊急時対応）9月29日に開催。新入職員、中途採用職員を中心に参加して頂いた。参加者は9名。

入職時に教育ユニットにて通り一遍の研修は受けているが、実務（夜勤業務）に携わる期間を考慮した時期の開催とした。事例を用いてグループワーク・演習・演習に対する評価・夜間緊急時のフローチャートの再確認を行った。参加者からは緊急時の対応を再確認できて良かったとの感想であった。

5. マニュアル・帳票類の見直し及び作成…50%

7月～8月にかけて誤薬・落薬事故が続いた為、内服薬セット・服薬に関するマニュアルを作成し各ユニットに配布。配布後は事故が徐々に軽減した。事故報告書の記入方法が統一されていなかった為、事故報告書の見直し・訂正を行い新書式作成。

今後の課題として事故報告書B・Cの見直し、（事故報告書Cに関しては事故防止策の実践評価として活用していく）必要に応じマニュアル等の見直しを行っていくこととする。

【考察】

今年度は会議そのものの在り方・委員会メンバーと各ユニットとの連携に不十分な点が多く課題が浮き彫りになった。一つ一つの課題を解決し、来年度は委員会メンバーと各ユニットが密に連携し施設全体の事故防止に繋がる活動を目指していく。

【 委 員 】

委員会は委員長が召集し、生活相談員（若しくは介護支援専門員）
・医務職員・介護職員・外部の専門家
必要に応じて管理職参加

【 日 程 】

毎月第1火曜日（月1回）リスクマネジメント

4-2 衛生委員会

【目的】

労働災害防止の取り組みは労使が一体となつて行う必要があるため、衛生委員会において、労働者の危険又は健康障害を防止するための基本となるべき対策（労働災害の原因及び再発防止対策等）などの重要事項について十分な調査審議を行う。

また、2015年12月から義務付けられたストレスチェック制度についても主体となり実施していく。

【内容】

- 1) 労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関する事。
- 2) 労働者の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関する事。
- 3) 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に関する事。
- 4) 前三号に掲げるもののほか、労働者の健康障害の防止及び健康の保持増進に関する重要事項。

【開催日】

月1回

第3火曜日

時間：14：30～

【構成メンバー】

衛生管理者

産業医

労働者（衛生に関する経験を有する者）

	活動内容
4月	巡視チェック 前期事業報告書作成
5月	巡視チェック
6月	巡視チェック
7月	巡視チェック ストレスチェックテスト実施
8月	巡視チェック ストレスチェックテスト結果返却
9月	巡視チェック
10月	巡視チェック 健康診断（夜勤者）
11月	巡視チェック インフルエンザ予防接種
12月	巡視チェック 感染症注意喚起
1月	巡視チェック
2月	巡視チェック 健康診断（全職員）
3月	巡視チェック 次期事業計画作成

【実施・評価】

- 1) 今年度、ストレスチェック制度の導入に基づき7月にストレスチェックテストを実施。稲毛こひつじ園職員・稲毛ペコリーノ職員 107 名に対し、参加回答者 75 名（69%）うち高ストレス者 15 名（参加者の 20%）との結果であった。テストの結果を参加職員へ返却し、高ストレス者に対し産業医への相談を推奨する書面を同封。今回は相談者 0 名にて産業医の面談の実施はなかった。ストレスチェックの参加率が 70%を割る結果となったのは、セルフケアの一環としてストレスチェックを実施するという周知が足りなかったと考えられる。来年度はストレスチェック実施の遅くても 1 か月前より職員へ実施の連絡・質疑応答できる状況を作る。また、セルフケアの一つという周知を広め、職員の健康障害防止に努めていく。

- 2) 職員の健康保持増進では、職員の健康診断・インフルエンザ予防接種を実施、夜勤者の健康診断は 10 月に実施した。2 月に予定していた全職員の健康診断は 3 月に実施となった。当園で健康診断が受けられなかった職員に対しては、指定医療機関へ受診して、健康診断を実施することで全職員が施行できた。インフルエンザ予防接種は 11 月に実施。アレルギーがある職員を除く 100 名の職員が 当園で予防接種を実施した。大半の職員が予防接種を実施したが、今年度は 4 名の職員罹患者があった。来年度も職員の健康保持増進に向けて継続して取り組んでいく。

- 3) 災害に対し、今年度は軽度のやけど 2 名・軽度切傷 1 名と、医務の処置で経過観察程度の受傷のみで経過した。今後も毎月の巡視チェックの施行・委員会での評価・検討を図り、労働災害の再発防止対策・自然災害の防止対策に努めていく。

4-3 褥瘡対策委員会

【 目 標 】

入居者様に対し、「生活の質と予防」に配慮した良質なサービスを提供すると共に、褥瘡が発生しないよう適切な介護・対策を行い、心身ともに穏やかな生活を送られるよう支援します。

- 1 各部署との連携、ユニット内の情報共有を充分に行い、褥瘡の予防と早期発見・早期報告・対応に努めることができた。次年度は発赤等も初期の発見とみなし、早期に予防の対応をすすめていく。
- 2 褥瘡予防を通し、個別ケアへの理解度を深め、職員の資質の向上につながったと思われる。次年度も食事ケア・排泄ケア・体位変換技術等の介護力の向上を目指す。

【 具体的方策 】

- (1) 月に1度褥瘡対策委員会議を開催。各部署から現状分析、意見交換、問題改善をしていく。
各ユニットにてハイリスク者の事例検討を行い、予防計画書の作成、評価を行うことができた。
看護師からの褥瘡治療者・皮膚疾患治療者の処置経過報告を受け、現状を把握していくことができた。
管理栄養士からの低栄養ハイリスク者の報告・体重管理報告をうけ、現状を把握していくことができた。
褥瘡発生ハイリスク対象者の個別ケア（予防計画）の実施評価・見直し・作成は、各ユニットでの評価に加え、委員会で他部署を含めた評価、意見交換を行うことができた。
- (2) 日常ケアで褥瘡の発生しやすい部位を観察し、早期発見・早期報告・対応に努めることができたが、発赤の発見から褥瘡予防に努める必要があることを周知徹底できなかつた。次年度は研修を通して、全職員への周知徹底を行う。
- (3) 対象者の予防計画書・評価表をユニット内で情報共有するために、ユニット内に張り出す等、委員会で周知する必要性を伝えることができた。このことにより、ユニット内で、計画、評価を継続することができた。
- (4) 今年度は理学療法士が委員として参加することにより、ハイリスク者のもとへ行き、褥瘡予防の具体的な個別ケアについてユニット職員とともに学ぶことができた。また、その後のケア状況について委員会で確認し、評価することができた。

【 業務スケジュール 】

28年	褥瘡委員会議開催
4月	第一火曜日 10:30～11:00
5月	第一火曜日 10:30～11:00
6月	第一火曜日 10:30～11:00
7月	第一火曜日 10:30～11:00
8月	第一火曜日 10:30～11:00 ※内部褥瘡対策勉強会→実施できず
9月	第一火曜日 10:30～11:00
10月	第一火曜日 10:30～11:00
11月	第一火曜日 10:30～11:00
12月	第一火曜日 10:30～11:00
1月	第一火曜日 10:30～11:00
2月	第一火曜日 10:30～11:00
3月	第一火曜日 10:30～11:00

《まとめ》

今年度は理学療法士の参加によって、褥瘡予防のあらたな知識・技術を学ぶことができた。施設内研修を行うことはなかったが、ハイリスク者のもとに行き、理学療法士を交えた具体的な予防策を学ぶことができた。次年度は、施設内研修を行い、褥瘡の基礎知識を学び、具体的予防策を提案していく。施設内研修を通して、多くの職員へ褥瘡予防への意識をもってもらうことを目標とする。

4-4 防災委員会

【 目 標 】

社会福祉施設においては各種の災害時に配慮を要する人が入所されており、その防災対策を確立することが強く要求されている。当委員会では特に火災時の対策に重点をおき、定期的に避難訓練を実施し、常日頃から職員および利用者様の防災に対する意識向上を図っている。

その他災害による人命の安全、被害の軽減、二次的災害発生防止を目的とする。

【 実施内容 】

1) 防災訓練に関する事項

年に二度行う避難訓練の計画、実施。それに際する書類作成、届出、記録等の活動。主に委員長が担当。

実施状況→3/22 日中想定 参加職員 約25名

9/21 夜間想定 参加職員 約8名

2) 防災（火災、地震）対策マニュアルに関する事項

対策マニュアルを毎年度末に見直していく。H28年度は行っておらず、H29年度中に行う予定。

3) 施設、設備、備品等の安全対策に関する事項

設備や備品の定期点検はセコムに依頼、セコムより実施後状況報告をいただき必要があれば改善予定としている。ヘルメット（各階2個）及び拡声器（各階1台）は各フロアごとの管理となり防災委員が各フロア責任者へ依頼としている。H28年度は避難訓練時に防災委員が見回りを行い点検した。今後は→訓練当日に防災委員が各階を見回り点検を行う

4) 被災状況に関する情報の収集及び、職員間の上传達の方法の整備に関する事項

被災時は指揮官に逐一報告する。指示は放送にて行うよう訓練している。適切に実施されていないため29年度伝達方法のマニュアル化及び避難訓練時実施トレーニングに力を入れることとする。

5) 緊急時の職員への連絡方法、連絡順序等の整備に関する事項

28年度中に見直しできていないため29年度事務課と個人情報に配慮しながら作成する。

6) 避難場所、及び避難経路の周知等、その他避難対策に関する事項

年間2回実施する避難訓練をもって避難経路の確認、周知の機会としている。現在は実施訓練の反省・評価は防災委員のみで行っている。来年度から施設全体へフィードバックする機会を設ける（研修を行う、メール配信など）。

7) その他防災に関して必要な事項

水、食料は「存在するという認識のみで、在庫や品質管理は行っていない。
来年度より、量、消費期限等の在庫管理及び保管場所の確認を定期的に実施していくこととする。

開催月	内容
4月	○施設巡視報告（避難経路に不要な物品が置かれていないか点検、ヘルメット、メガホンの配置場所の点検） ○避難訓練の実施（夜間想定）
5月	○施設巡視報告 ○避難訓練の反省、改善点の話し合い
6月	○施設巡視報告
7月	○施設巡視報告 ○喫煙所清掃、喫煙所使用マナーについて
8月	○施設巡視報告 ○次回の避難訓練について避難訓練
9月	○施設巡視報告 ○非常口、避難経路上の物品について
10月	○施設巡視報告 ○避難訓練実施
11月	○施設巡視報告
12月	○施設巡視報告
1月	○施設巡視報告
2月	○施設巡視報告
3月	○施設巡視報告

○施設巡視により敷地内喫煙マナーの向上、避難経路の確認を職員同士で確認できた。

【まとめ】

各項目に示したとおり防災委員としての計画・活動に対しての問題点及び改善点が明確になったため29年度はひとつひとつ解決し実践していく必要がある。特に防災危機管理の基本となる全員参加の避難訓練・フロア毎の避難訓練を毎月実施していくこととする。また、29年度は地域と更なる連携ができるように施設内にとどまらず可能な限りアウトリーチしていくこととする。

社会福祉施設においては各種の災害時に配慮を要する人が入所されており、その防災対策を確立することが強く要求されている。当委員会では特に火災時の対策に重点をおき、定期的に避難訓練を実施し、常日頃から職員および利用者様の防災に対する意識向上を図っている。

その他災害による人命の安全、被害の軽減、二次的災害発生の防止を目的とする。

4-5 介護力向上委員会

【 目 標 】

介護力向上委員会は、小羊会グループ全体の基本方針・目標の元、社会福祉法人初穂会の理念、基本方針、中長期計画・重点目標を達成するために目標を以下の通り定める。

1 オムツ0の達成

- (1)全長期利用者の日中オムツ使用率を0%としていく。
- (2)全長期利用者がトイレで排便できるよう取り組んでいく。

《報告》

・オムツ0は達成ならず。

排便場所がベッド上 12.64%→13.1% (前年度比較+0.46%悪化)

オムツ使用率 8.05%→17.9% (前年度比較+9.85%悪化)

・悪化の理由として、拘縮が強い方など座位が難しい方のトイレ誘導ができなかった。

次年度はポータブルトイレなどをもっと活用し、研修で学んだ他施設でのやり方を取り入れて数字の改善に努めていく。

・下剤使用率 73.56%→75.0% (前年度比較+1.44%悪化)

・今後は「7つの排便ケア」を施設全体にしっかり浸透させていく必要がある。

2 入院0 (肺炎・骨折が原因のもの)

- (1)肺炎・骨折を原因とした入院件数を0件としていく。
- (2)常に肺炎・骨折について予防・リスク管理していく。

《報告》

・肺炎、骨折の予防管理が不十分な伝達などの理由により十分に出来なかった。

・今後は、予防のために、水分摂取の重要性を全職員に浸透させていかなければならない。

3 在宅復帰

- (1)在宅復帰を願う利用者に対し、在宅復帰まで計画的に支援していく。
- (2)常食化・歩行訓練等を行っていく。

《報告》

・常食化率 (主) 58.62%→63.1% (前年度比較+4.48%改善)

・常食化率 (副) 42.53%→53.6% (前年度比較+11.07%改善)

・歩行率 20.69%→20.2% (前年度比較-0.49%悪化)

- ・常食化において、数値的には改善傾向であるが全体ではまだ低いため、今後とも管理栄養士等と連携をとりながら取り組んでいく。
- ・歩行率は介護力向上講習会参加施設の中でも特に低いため、機能訓練士と協力し、歩行訓練を活性化させていく。

【 具体的方策 】

1. オムツ0に向けて

(1)全長期利用者の日中の排泄誘導において、ベッド上でのパット交換を廃止する。

- ①2人介助でのトイレ誘導・ポータブルトイレへの誘導。
- ②日中は全利用者のリハビリパンツを使用していく。(最終的に布パンツへ)

(2)トイレで排便する為に。

- ①定期下剤使用率を0%とする。(頓用も極力減らす)
- ②ふんばる君の正しい活用と正しい腹部マッサージを行う。
- ③サンファイバーやオリゴ糖の積極的な活用。(使用率90%以上を目指す)
- ④正しい姿勢での食事・常食での食事。

(3)オムツ0による具体的効果。

- ①尿路感染等になりにくくなる。
- ②尿・便汚染による皮膚トラブルの予防となる

2. 肺炎・骨折が原因の入院件数0

(1)肺炎予防。

- ①体内の水分量が欠乏すると肺炎が多発するため、1人1人の水分量を増やす。
- ②全体の平均水分摂取量を1,800ml目標とする。
- ③正しい口腔ケアの徹底。(訪問歯科医のアドバイス等を参照に)
- ④医務との連携を強化する。(変調時は即報告)

(2)骨折予防。

- ①折予防も水分補給が大事である。(全身の筋活動が水に支配されているため)
- ②行訓練によって転倒のリスクも高まるが、それぞれにあった対策をとる。

3. 在宅復帰へ向けて

(1)在宅復帰を願う利用者に対し、各部門と家族を交えた話し合いを行い、段階的となっている計画を立てる。

(2)常食化・歩行訓練の実施。

- ①常食・常菜の提供。
- ②義歯が無い・合わない場合は歯科往診にて相談。
- ③歩行訓練を実施する。(片麻痺・寝たきりでも行う)
- ④①～③を行うことで認知症の症状が軽減されていく可能性がある。

【 業務スケジュール 】

千葉市老人福祉施設協議会が定めるスケジュールに沿って動いていく。

施設内での研修も年間2～3度行っていく。(日時は未定)

《報告》

- ・ 2か月に1度の講習会参加と1か月に2度の委員会会議を行う。
- ・ 施設内研修としては10月に1回実行、年間で1回のみの実施であった。
- ・ 新人職員などに取り組みがうまく伝達できなかった。
- ・ 施設全体の意識としては以前より向上している印象だが、「なぜやっているのか」を理解できていない職員が多く、定期的な研修の開催が必要である。
そのため、月2度の会議のうち1度を研修の時間とする案もある。
- ・ 今年度はデータが十分にとれず、管理も出来なかったため、次年度は更に様々なデータを集計し、取り組みに活かしていきたい。
- ・ これらの取り組みは項目が多いため役割分担が必須であるが、それらがうまく分担できずに活動が停滞してしまったので、今後それらを改善していく必要がある。

4-6 食中毒蔓延防止・感染対策委員会

【 目 標 】

1. 利用者様の高齢化・重度化に伴い、感染症・食中毒が利用者様の全身状態に与える影響が大きいことを認識し、全職員が知識・技術を研鑽し適切で速やかな対応が出来るよう研修を通じ習得を図る。
2. 利用者様が安心して生活出来る環境を作る。

【 具体的方策 】

1. 新入職員・中途採用職員に対しての研修
入職時、感染について30分程の研修を行う。
2. 感染症及び食中毒の予防蔓延防止のための研修会開催（年2回開催）
 - 1) 手洗い・ガウンテクニック等の実技研修
 - 2) 食中毒に関する研修
 - 3) 感染症（ノロ・インフルエンザ）に関する研修
 - 4) マニュアルの見直し・作成
感染・食中毒・デング熱発生時に修正・改善の見直しを実施し、対応の迅速化をはかるため緊急時のフローチャートを作成する。
3. 感染症発生時の対応・記録・報告
感染症発生時の記録を共有化し、次回の感染予防に対応する
4. 感染症情報の提供（必要時）
官公庁等からの情報をモニタリングし、発信情報を随時公開していく。
更に必要情報の選択を実施し、職員への周知徹底を実施する。

【 実施・評価 】

1. 新入職員・中途採用職員に対する、入職時の研修はマンパワー不足の理由から委員会としての研修を実施することは出来なかった。しかし、配属先ユニットにて日々の業務の中で感染蔓延防止に対する対応を実施した。
また、委員会から職員へ感染予防に対する注意喚起をメール送信し感染蔓延の予防を図った。
入職後からすぐに入居者様と関わる上では、入職時の研修は大事と考える。
入職時の研修実施が困難な場合を想定し、今後は感染蔓延防止に関する資料を準備することも必要と考える。
2. 年2回の研修開催計画だったが、マンパワー不足の理由から11月の開催1回となってしまった。年1回となってしまい、職員の参加率を上げるため実施日を2日間に分け開催した。結果参加人数は13名であった。研修

内容はノロウイルス・インフルエンザに関する資料を作成。その資料をもとに口頭で説明しその後質疑応答の時間を作った。(今年度質疑は特になかった。)

手洗い・ガウンテクニックに関しては、委員によるデモンストレーションを実施。その後、参加職員に実技してもらい不明点をその都度説明した。今年度は1回の研修開催となってしまったが、感染症及び食中毒は年間を通じて蔓延するリスクがあるため、今後は年2回開催できるよう努めていく。

- 3 前年度、ノロウイルス・インフルエンザ・デング熱発生時のマニュアル・フロチャートの見直しを十分に行うことが出来なかった。
今年度はマニュアル・フロチャートの改訂を実施し、職員全体が迅速に対応できるよう努める。
(デング熱に関しては数年前に発生があり、委員会にて発生時対応を検討したが、近年は発生なく経過しているため、ノロウイルス・インフルエンザの対応の確立していく。)
- 4 感染症発生に関し、28年度ノロウイルス感染は発生なく経過した。
インフルエンザについては、1階フロア入居者3名の発症があった。施設全体にメールにて発症の連絡ならび注意喚起を実施した。
施設全体での情報共有に努めたが、反省点として書面等での記録が不十分であった。
感染予防・発生時の迅速な対応の為に、発生時の状況・対応についての記録を作成し、今後の対策に努めていく。
- 5 官公庁等からの情報に関しては、メールや研修にて職員へ伝達し周知徹底に努めた。
結果、ノロウイルスは発症ゼロ、インフルエンザについては発症者が出たが、流行最高時の発症は防ぐことが出来た。
今後も委員会を中心に、適宜メールの配信、また研修を通じて職員全体への周知徹底を図っていく。

4-7 広報行事委員会

【 目 標 】

1. 施設行事を開催し入居者、ご家族、地域の方との交流を深め共存していく
2. 季刊誌を発行しご家族、地域の方たちへの情報提供

【 内 容 】

1. 施設行事（納涼祭、敬老会、文化祭、餅つき）の開催、運営
2. 季刊誌の年4回発行
3. 萩台自治会との交流、情報交換、特に納涼祭は7月第3日曜日とし自治会合同で開催

【 委 員 】

委員会は委員長が召集し、生活相談員（若しくは介護支援専門員）・看護職・介護職・栄養士・外部の専門家及び必要に応じて管理職の参加

【 日 程 】

	委員会	活動内容
4月	毎月第4月曜日	季刊誌春号発行
5月		納涼祭準備
6月		納涼祭準備、
7月		納涼祭、第3日曜日、季刊誌夏号発行
8月		
9月		敬老会
10月		季刊誌秋号発行
11月		文化祭開催2日間、
12月		餅つき、
1月		季刊誌冬号発行
2月		次期事業計画作成
3月		総括

「評価」

- 納涼祭：萩台若葉自治会、萩台あざみ会自治会と合同にて開催、ボランティアの協力も得て実施できた。7月第三日曜日開催と地域に根付いている参加者は250名。改善点は駐車場確保が不十分にて出入り口にて渋滞を巻き起こして近隣に迷惑をかけてしまっている。職員駐車場確保が重要である。

- 敬老会：歳祝いの方（20名）中心にご家族へ声掛けし会食を行う。目の前で海老を焼き上げ喜んでいただけた
- 文化祭⇒10周年記念：今回は開設10周年を迎え、軽食、ボランティアイベント、利用者作品の展示に加え、職員向け記念ポロシャツを作成、全職員へ支給し団結が生まれた
- 餅つき：12月28日に餅つき実演を各フロア、デイサービスをまわり、お汁粉を食べ年越し準備が出来た
- 新年会：バイキング形式の昼食を利用者、職員とで食事を楽しむ。寿司職人二人で利用者の前でにぎる実演実施、和洋中のご飯物、麺類、デザートを取りそろえた。（2日間）改善点として開始時間に間に合わない食べ物がありました
- 日帰り旅行：3月23日に海ほたるへ日帰り旅行、2家族の参加で満足いただけた。良かった点として、ご家族だけでは外出するのが難しいと話があり手助けできて良かった。また、今後の課題として今回は初回として2家族だったが、規模が大きくなった時の運転手（大型）の手配、職員配置、旅行ルートを選定などあり課題解決に向け来年度は取り組みしたい
- 季刊誌：春、夏、秋、冬号として年4回発行、新入職員紹介、イベント報告を中心に発行できご家族へ配布、ユニットにも掲示して楽しんでいただけた。

総評：施設行事、季刊誌発行を中心に活動してきた。行事開催日には天候にも恵まれ大きな事故もなく実施できた。また、日帰り旅行も2家族の参加だったため来年度へ向けては幅広く行い1泊旅行にもつなげていきたい。納涼祭を中心に地域と連携しイベント開催して萩台を盛り上げていきたい。

4-8 身体拘束廃止検討委員会

1. 目標に対する成果

利用者が個人として尊重され、快適で安全に暮らすことが保障されることを目的として身体拘束をしない身体拘束ゼロ介護を目指し、以下の内容に基づき事業を実施した。

2. 内 容

○身体拘束ゼロを目指すべく職員の意識の向上をはかる勉強会の開催

平成 28 年 9 月 6 日（火） 地域交流室 職員 13 名参加

施設内で取り組める目標の策定を実施。

その後、平成 29 年 1 月に取り組み状況のアンケートを行う

結果。配布 30 枚 回収 7 枚（23%）

取り組みができている及び、まあまあ出来ているに意見が集中する結果となった。

○施設内での拘束実施状況に対する委員会での話し合い

委員会開催ごとに 2 階、3 階で行われていた拘束行為（施錠など）の実施状況及びその経過、今後の対応について話し合われた。

結果として、2 階利用者 1 人に対する拘束行為（施錠）が引き続き実施となった。

※年度初めに比べると利用者自身も落ち着き、状況に応じた対応継続となっている

3. 委員会の開催

本年度の委員会開催は以下のとおり。（※引継ぎの都合上、6月からの開催となります）

開催日	主な内容	出席委員
6月21日	・新役員の選定 ・研修会開催について	4名
7月19日	・研修会の開催及び内容について	5名
8月16日	・研修会の内容及び役割分担 ・事例検討	4名
9月	委員会に代わり研修会実施	別記のとおり
10月	未開催	
11月15日	・設定した目標の取り組み状況 ・事例検討	4名
12月20日	・アンケート実施について ・利用者の現況と今後の対応（2階1名、3階1名）	3名
1月17日	・事例検討 ・次年度の事業計画について	4名
2月21日	・アンケート結果について ・次年度事業計画の見直しについて	4名
3月21日	・利用者の現状及び今後の対応 ・スピーチロックについて	4名

その他、報告・検討事項等なく、次年度事業に於いて継続並びに、新規事業として取り組んでまいります。

5 地域カフェ こひつじ (認知症カフェ)

社会福祉法人 初穂会では 平成 27 年 12 月に【 地域カフェ こひつじ (認知症カフェ)】をプレオープンさせ、平成 28 年 1 月より毎月第 2・第 4 土曜日に 稲毛こひつじ園 地域交流室において実施した。元民生員がボランティアとして参加し、職員がその運営を行っている。

参加人数は 10 名～20 名の地区住民や家族が訪れ、昼食を中心に会話が弾んでいる。メニューも季節、月の旬の食材を使用し、行事食を取り入れている。夏からは機能訓練士による体操を開始、こちらも昼食と共に人気となっている。

利用者数 (平成 28 年度) 485 名

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
33 名	38 名	37 名	34 名	32 名	38 名	42 名	55 名	51 名	31 名	49 名	45 名



6 ほっとスペース 稲毛ペコリーノ

【 目 標 】

- 1 地域貢献
- 2 連携強化

【 施策・評価 】

1.活動内容

1) 介護講座の開講

各講座の広報活動を広く実施。(地域住民・自治会・千葉市内を中心に老人福祉協議会・有料などの福祉施設・学校ほか)

①開講結果

講座名	クラス	受講生	受講生合計
介護職員初任者研修	10	93	261
介護職員実務者研修	10	116	
福祉用具専門相談員	2	32	
介護福祉士試験対策	4	20	

②振り返り

介護福祉士試験の受講要件変更に伴い、改めて実務者研修の広報を各施設に行ったことで、受講希望者が増加し、新たに介護福祉士試験対策講座も開講したことで、既に実施済の初任者研修も加えると、基本となる介護講座の開講を全て行うことができたと言えます。また、福祉用具専門相談員の受講生も増加傾向にあります。主な要因は、近郊での開催箇所が少ないことや関連施設への広報活動の効果が少しずつ出てきている為です。尚、初任者研修の受講生については、やや減少しているが、各施設からは初任者研修の開講依頼があることや「福祉講座のことならペコリーノ」と、広く認知いただく必要があるため、多方面からの検証も踏まえながら引き続き開講させるとともに、初任者研修修了生の人材供給をこひつじ園に対して行う予定です。今後外部環境を踏まえながら新たな講座を開講させるとともに、若い世代にも福祉を学んでいただく場として、高校生・大学生などを対象としたクラスの開講も実施します。

2) 職員研修・福祉セミナー・修了生勉強会の開催

こひつじ園との連携による職員研修、地域支援活動の一つとして、地域向けセミナーを開催

① 開催結果

項目	内容	参加人数
職員研修	リーダー研修	6
セミナー	シニアサイン	22
セミナー	安心老後と相続のためにできること	24
修了生支援	振り返り勉強会	5

② 振り返り

職員研修では、施設以外の場所でしっかり研修を実施することができ、修了生勉強会は、修了生との関わりを継続することで、こひつじ園への興味（就労）を引くことのきっかけとなっています。また、本年度のセミナーでは多くの来室がありました。今後も自治会等、地域との関連を強化し、地域ニーズを踏まえた開催を行います。

3) 学習支援事業

地域支援活動として実施。

① 開催結果

クラス	児童・生徒数（延べ人数）
小学生	5名
中学生	2名
高校生	3名

② 振り返り

限られた時間での活動ですが、保健福祉センターからも放課後の活動の場として期待されています。また、地域で開催されている「こども食堂や生活困窮支援者」などからの連携依頼もあることから、これらの支援団体とも可能な範囲で柔軟に連携することで、これからも地域で求められる活動を行いたいと考えています。

7 EPA

29年度は、昨年同様、3名のベトナム人介護士が、現在勉学に励んでおります。

平成27年5月入国。幕張にて国際厚生事業団主催による日本語研修を受ける。

平成27年8月社会福祉法人初穂会特別養護老人ホーム稲毛こひつじ園にて就労開始。

現在は各ユニットに配属され、日勤帯・夜勤帯問わず他の常勤職員と同様にすべての時間帯で勤務しながら実技を学び身体介助も行っている。

また、稲毛ペコリーノにおいて、毎週水曜日に日本語教師(平成24年度より依頼している介護福祉士)からの指導を受けている。

ロイ職員は平成27年7月に日本語能力試験のN2に合格。マイ職員、ティン職員は平成28年7月にそれぞれN2の試験に合格した。

8 法人本部 (平成29年3月31日現在)

【役員等】

No	役職名	氏名	任期満了日
1	理事長	平賀 雅道	H29.9.14
2	理事	長沼 信治	H29.9.14
3	”	青柳 貞一郎	H29.9.14
4	”	平賀 弘美	H29.9.14
5	”	野上 正江	H29.9.14
6	”	藤江 岩美	H29.9.14
7	”	濟木 昭宏	H29.9.14
8	”	松原 忠司	H29.9.14
9	”	松崎 泰子	H29.9.14
10	”	加藤 裕二	H29.9.14
1	監事	小松崎 丈司	H29.9.14
2	”	田村 千代子	H29.9.14

【理事会の開催状況】

開催年月日	出席者数	審議事項
平成 28 年 5 月 24 日	理事 10 名	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度事業報告・決算案件 ・規則規程案件 ・その他案件
平成 28 年 7 月 5 日	理事 7 名	<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業案件 ・定款変更案件
平成 28 年 12 月 18 日	理事 10 名	<ul style="list-style-type: none"> ・定款変更 ・評議員専任・解任委員選任案件 ・その他
平成 29 年 2 月 12 日	理事 10 名	<ul style="list-style-type: none"> ・新評議員選任
平成 29 年 3 月 27 日	理事 10 名	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度事業計画・当初予算案件

【評議員】

No	役職名	氏名	任期満了日	No	役職名	氏名	任期満了日
1	評議員	平賀 雅道	H29.3.31	12	評議員	田村 千代子	H29.3.31
2	〃	長沼 信治	H29.3.31	13	〃	菅原 靖顕	H29.3.31
3	〃	青柳 貞一郎	H29.3.31	14	〃	伊藤 幸江	H29.3.31
4	〃	平賀 弘美	H29.3.31	15	〃	佐々木 英幸	H29.3.31
5	〃	野上 正江	H29.3.31	16	〃	高橋 和男	H29.3.31
6	〃	藤江 岩美	H29.3.31	17	〃	時田 美奈	H29.3.31
7	〃	濟木 昭宏	H29.3.31	18	〃	鳥屋部 祐子	H29.3.31
8	〃	松原 忠司	H29.3.31	19	〃	野中 隆広	H29.3.31
9	〃	松崎 泰子	H29.3.31	20	〃	宮本 圭子	H29.3.31
10	〃	加藤 裕二	H29.3.31	21	〃	室伏 佑香	H29.3.31

【評議員会の開催状況】

開催年月日	出席者数	事項
平成 28 年 12 月 18 日	評議員 18 名	<ul style="list-style-type: none"> ・定款変更案件 ・評議員選任・解任委員選任案件 ・その他

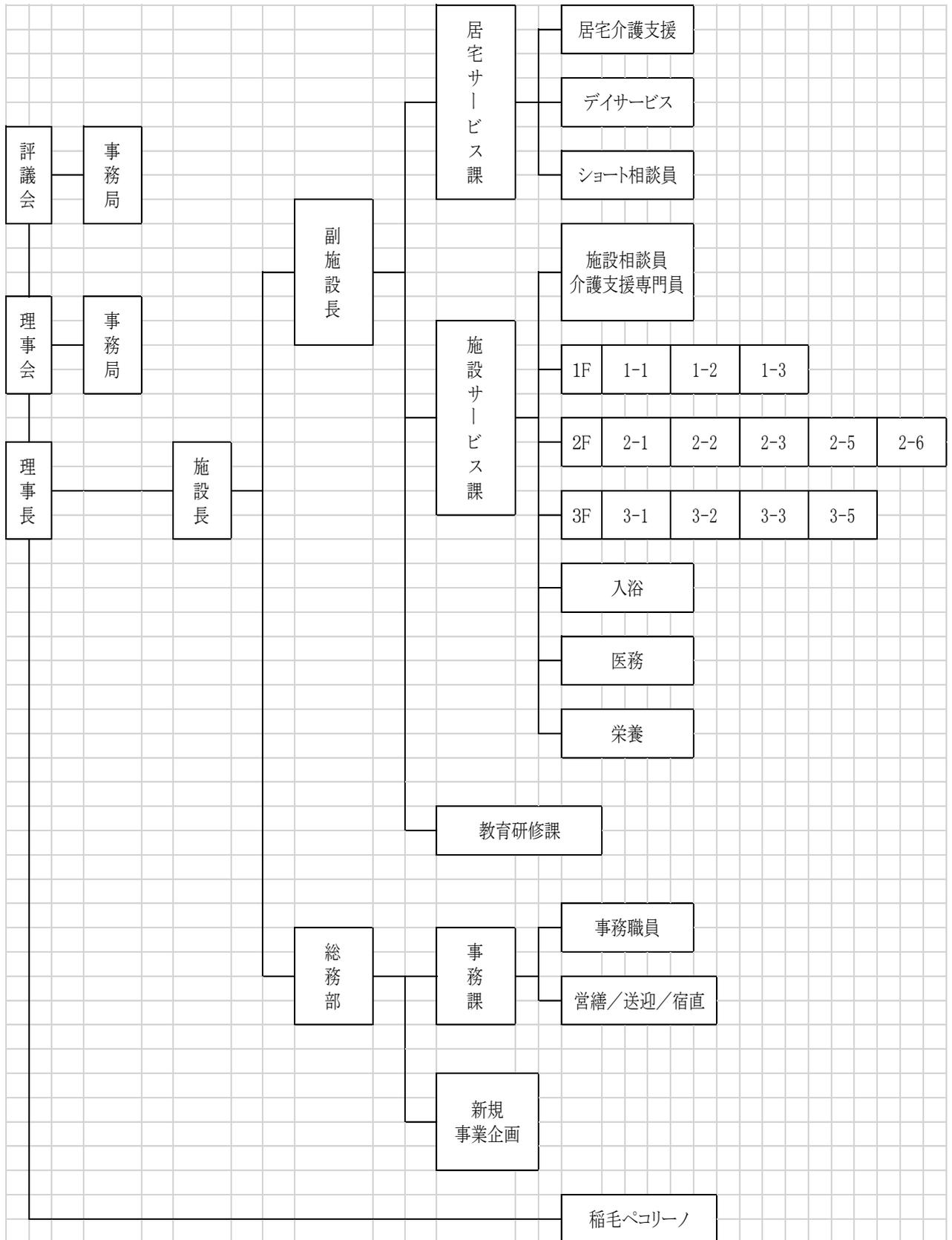
【評議員選任・解任委員】

No	氏名	任期満了日
1	竹下 善和	平成 32 年度期定期評議員会
2	田村 千代子	”
3	大谷 昌久	”

【評議員選任・解任委員会の開催状況】

開催年月日	出席者数	事項
平成 29 年 2 月 12 日	委員 3 名	・新評議員選任

9 組織図



10 職員配置状況

一般募集も継続して行うとともに、初任者研修事業（稲毛ペコリーノ）からの初任者研修修了者を確保し、また海外（EPA）の介護福祉士候補生の受入れにより雇用を確保する。

【勤務形態別状況】

平成29年3月31日現在

区 分	常 勤	非常勤	計 (人)
施 設 長	1	0	1
副 施 設 長	1	0	1
事 務 長	1	0	1
事 務 長 代 理	0	0	0
施設サービス課長補佐	1	0	1
特養生活相談員	1	0	1
特養介護支援専門員	1	0	1
特養介護職員	40	20	60
特養看護職員	4	1	5
介護補助/食事介助	1	1	2
管 理 栄 養 士	1	0	1
理 学 療 法 士	2	0	2
事 務 課	4	4	8
営 繕 ・ 運 転 手	2	9	11
短期生活相談員	1	0	1
デイサービス生活相談員	1	0	1
デイサービス介護職員	4	1	5
デイサービス看護職員		1	1
居宅介護支援センター	2	0	2
稲 毛 ペ コ リ ー ノ	3	0	3
合 計	71	37	108

【職種別配置状況】
(介護老人福祉施設)

区分	常勤	非常勤	計
施設長	1		1
副施設長	1		1
事務長	1		1
施設サービス課長 補佐	1		1
生活相談員	3		3
介護支援専門員	1		1
介護職員	40	19	59
医師		1	1
看護職員	4	1	5
介護補助/食事 介助	3	1	4
管理栄養士	1		1
機能訓練指導員	3		3
事務課	6	0	6
営繕・運転手		12	12
栄養士・調理人	1		1
合計	66	33	100

*医師は業務委託

平成29年3月31日現在
(通所介護)

区分	常勤	非常勤	計
センター長	1		1
生活相談員	1		1
機能訓練指導員	1		1
看護書職員	1		1
介護職員			
合計	4		4

(居宅支援)

管理者	1		1
介護支援専門員	1		1
合計	2		2

(ほっとスペース稲毛ペコリーノ)

管理者	1		1
事務員	2		1
合計	3		2

【資格取得状況】

平成29年3月31日現在

(老人福祉施設)

(通所介護)

(総合計)

区分	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	総計
社会福祉士	1	2	3	1		1	2	2	4
社会福祉主事任用 資格	6	5	11	1	1	2	7	6	13
主任介護支援専門員									
介護支援専門員	3	5	8				3	5	8
介護福祉士	6	26	32				6	26	32
看護師		4	4					4	4
准看護師	1		1				1		1
ヘルパー1級									
ヘルパー2級	6	24	30		1	1	6	25	31
初任者研修修了者									
管理栄養士		1	1					1	1
理学療法士	2		2				2		2
作業療法士					1	1		1	1
合計	25	65	90	2	2	4	27	67	94

社会福祉法人初穂会 事業報告
編集:稲毛こひつじ園 事務課
平成29年6月19日発行